Liarsoftの嘘つきエンターティメントマガジン

月刊 USO うそ。



TOPIX

- 防護巡洋艦「信天翁」が実装されました。
  南シナ海域でドロップ可能です。
- ロンドンの百合霊さん？　王立碩学院にて目撃情報
- 嘘つきの夏休み8月75日目突入
- 映画 メイザースと魔法の杖 製作中
- オータムージャンボうそクジ、当選発表！
- 雷電川柳大賞決定！ 雷鳴を耳にするたび思い出せ（72）さん
- ここのトピックスには本当の事しか書いていません。

TOPIXネタ投稿募集中～　ポイントもつくよ!!

Volume. 45

Quarterly

400ニコル（税込）

巻頭特集

「学園」

新旧取り混ぜ学園大集合！君はいくつ入学できるか!?

（注：大人の事情により「学校」は世界に存在しません！）

cover model=因幡うさぎ～ズ&アンヌ、JJ、アナベス　photo=忌野Lem

INDEX

SEASONLY LIARMARU

COVERGIRL



秋だー/秋だー！/スポーツの秋、読書の秋!/ゲイ術の秋！/おい、その変換はヤメたまえ/と、言うわけで紙面新装です/あまり変わらな…/懐かしさと新しさの同居！/レトロ&ニュー！/乳ー！/その変換はヤメたまえ

特集 学園

学生達が集い学び、青春を謳歌する地。今回は「学園」にスポットを当て関わりのある作品の常設連載と共に懐かしい作品もご紹介いたします。

貴方はどの学園に入学したい？



「サフィズムの舷窓～an epic～」

「H.B.POLAR STAR」



「黄雲のガクトゥーン」

「マルセイユ洋上学園都市」



「Little Little Election」

「市立みつば学園」



「LOVE&DEAD」

「美育学園」



「サルバと～れ」

「早川学園」



「屋上の百合霊さん」

「商科九ッ星女子学園」



「水スペ」

「八鏡公立大学」



「星継駅苑集箱」

「？？？」



『H.B.POLAR STAR』

ボンジュール！仔猫ちゃん達。
ほとんどの人たちは初めましてかな？今回この特集の栄えあるトップを務めさせて頂く、杏里アンリエットだよ。

世界に存在する様々な学園。その一端を紹介しようというこの特集。まずはボク達が在籍する洋上の花籠「H.B.POLAR STAR」を紹介しよう！

この学園の最大の特徴は巨大な船に設けられた学園船であることと生徒のみならず船員、職員に至るまで女性によって構成された女子校であることかな。

生徒達は世界各地から淑女になるべく集い、七つの海を巡り、この船上で学ぶこととなるんだ。

世界中から生徒が集うだけあって、生徒の国籍も多種多様だよ。ただ、世間では「お嬢様学校」などとも言われるだけあって、それなりの地位や財を持つ家の子女が殆どだね。

中にはちょっと家でのやんちゃが過ぎて放り込まれたっていう変わり種もいる。まあ実際はとても可愛い娘なんだけど・・・・・・。おっと、あとで怒られちゃうからこの話題はここまで！

この学園の歴史は古く、それだけに様々な伝説や噂がある。七不思議や怪談なんかもいくつもあって専門に追いかけている同好会とかもあるらしいよ。

え？屋上に女生徒の幽霊は出たりしないのかって？うーん残念だけどそんな話は聞いたことは無いし、幽霊となるとボクよりも年上になっちゃうと思うから居たとしてもちょっと残念。

あと、これは伝説とは違うけど、この船には兄妹校があるらしくて、そちらは潜水艦の中に作られた男子校って噂だけど本当なのかな？

さて、ボクの話はこれくらいだ。この学園の生活についてもっと詳しく知りたいキミは「サフィズムの舷窓 an epic」の中でまた会おう！

では、ア ラ ブホシェヌ フォア！（またいつか！）



『市立みつば学園（L.L.E）』

○学長からのメッセージ

我々の住むこの地方都市は、これまで原発や米軍基地のみならず、オリンピックやワールドカップなどの招致活動を行い、そしてその全てに破れてきました。このままではこの街は滅びてしまう！　そのような危機感の中、最後の切り札として誕生したのが我が「市立みつば学園」です。全ての学園を統合し、そして有為な人材を大量に輩出することで寄付金でがっぽがっぽという学園都市計画。さらには奨学金３億円のかかった学園会長選挙を行い――

早苗「いやそんなことより、隣のページ！　水スペの連中、完全にこっちを原住民扱いしてる……」若葉「あ、みなさんこんにちは。ＬＬＥのヒロインで会長候補の１人、鈴谷若葉です」早苗「自分だけちゃっかりあいさつしてんじゃないわよ！」弥生「すでに会長選挙ははじまっているということよ、伊吹早苗」若葉「はぁ。よくわかりませんが、ＬＬＥでは、あたしと伊吹早苗さん、樫原弥生さんの３つの陣営で会長選挙を行うっていうゲームなんですよー」早苗「でも出てくるキャラの頭身が低すぎるとか幼女っぽいとか、そういう理由で全く日の目をみないけどね！」若葉「困りましたねぇ。みんな１８歳以上の奨学生なんですけど……」早苗「おのれアグネス……　あいつさえいなければ、ＤＬ販売くらいはsiteもらえたかも知れないのに……」弥生「大丈夫、その件については、私に考えがあるわ」若葉「わぁ、さすが天才陣営の弥生さんですね！」早苗「どうせ暗黒理科だかなんだかっていうオカルトでしょ？」弥生「暗黒理科でもいいのだけれど、こんな理不尽な状況を打破するには、あの漢（おとこ）たちを呼ぶに限る」早苗「あの漢って？」弥生「決まってるじゃない、応援団よ！」
若葉・早苗「お、応援団～？」

『早川学園（サルバと～れ）』

○リーダー部愛の劇場

アッモーレ！（挨拶）

俺が早川学園リーダー部部長、長岡翔だ！　リーダー部ってのは、まぁいわゆる応援団ってヤツだが、そんじょそこらの応援団とは訳が違う。部活の連中はもちろん、横断歩道を渡れないおばあちゃん、トイレ（大）にいけない小学生、リストラされたサラリーマン、ふぐりから出たくない引きこもりの精子などなど――　とにかく森羅万象ありとあらゆる事を応援する。それが俺たちのスタイルだ！

・長岡翔
ヨーロピアンスタイルの応援を身につけた凄いヤツ。
つまり俺だ。

・押川凜
数少ない正統派応援団。先代団長の妹だな。
学ラン＋ブルマはいいよね！

・エルナ・インブリー
東欧から来た赤貧留学生。
ボロは着てても心は錦。リーダー部にふさわしいスピリットの持ち主だ。

・橋戸春奈
唯一の先輩で元チアリーディング部部長。
手に負えない　タイプの女だ。怖い。

・河野穂香
元は俺たちを敵視していた自治会長。
だが闘いの末わかり合えた。今では重要なメンバーの１人だ。本人は認めてない？　ツンデレってやつだな。

これに黒人の岡崎騎手を加えた６人、それが俺たち早川学園応援団。助けを借りたいときは、いつでも言ってくれ！

弥生「どう。この人たちに頼めば、ＬＬＥのＤＬ販売なんて赤子の手を捻るような――」長岡「ごめん、無理！」弥生「！！」若葉「一瞬で謝られましたね……」長岡「だって君らのほうが赤子っぽいっていうか……　もうちょっと成長してレディにふさわしい頭身になってから来てくれ！　それじゃアリヴェデルチ！」早苗「ぐぬぬ」

『八鏡公立大学(水スペ)』

川野口探検隊！

昭和史の側面に深く刻まれたあの伝説的存在を皆さんはご存じだろうか。前人未踏の地に分け入り、文明の利器も役に立たない未踏の地に身体一つで挑む冒険野郎たち。未だに解明されてない謎を求めて世界中を駆け巡り、日本中を熱狂させた彼らが、なんと２１世紀になって再び結成された！

校舎の影から突如牙を剥く未確認生命体！

学園に隠れ住む原始学生！

人々の侵入を拒む難攻不落の商店街！

これらの秘境に敢然と立ち向かう、それが彼ら八鏡公立大学探検部である！

では早速だがメンバーを紹介しよう！

まずは部長にして隊長、川野口ノブ。彼女はなんとあの日本を代表する探検家川野口昭雄の一人娘だ。得意分野は……

特にないけど彼女のような人物でなければ、くせ者揃いの探検隊のリーダーはつとまらないだろう。

そして副部長という名の雑用、山辺弘。この探検隊では“象徴部長制”を採用しているので、実務は彼が一手に引き受けている。理不尽な目にあえばあうほど興奮する便利なM体質の好青年だ。

井之頭円。新聞部部長だが、うっかり探検隊に関わってしまったために隊員扱いされている。この探検隊では貴重な現実主義者。

西村ハル子。脳内ベトナムからの帰還兵だ。陰謀論ならお手の物。障害は全て火力で排除するぜ。

アドルフィーネ・メンゲル。ドイツ系ブラジル人だ。飛び級しまくってこの大学にやってきた天才児。大統領でも人体改造してみせる。

ほぼ全裸の土じ――　もとい原住民スタイルで闊歩しているのが“コヤネ”だ。もとは留年した大学生が土着化した部族の一員。野生最高。

美輪居高子。巫女っぽい格好をしている学生自治寮の寮長さん。強度の霊媒体質で、気を抜くとほいほい霊体に憑依されるので注意が必要だ。

以上が中核メンバーだ。もちろんこれだけのメンツで秘境探検は無謀すぎるので、他にも暇な学生などを駆り出して手伝ってもらっている。そのせいで試験期間中などは探検に行くのも結構大変だ！

ではミーティング中の川野口ノブさん、一言お願いします。

ノブ「次の探検のテーマはこれよ！　“ＬＬＥ原人を追え！恐怖、平均４頭身でも１８歳以上！　～かたくなまでのひとスジの道　もうすこし時が緩やかであったなら～”やっぱりバーゴンとかヒバゴンとか、原人捜しは探検隊の華だし！　今度も絶対面白いから、みんな見てねー」



「サルバと～れ」、「水スペ」は現在好評ＤＬ販売中！

「Little Little Election」はうん・・・その・・・ゴメンなさい・・・

『万聖節／ハロウィン』

■18XX年10月某日、合衆国某都市郊外

空に、星明かりが絶えて幾年が過ぎたろうか。
深い暗がり。闇。実に、似つかわしい夜ではあるのだろう。

「ウ、ゥ」
合成樹脂製の分厚い覆面越しに響く声は、不気味で、人間の喉から発せられたものであると認識するのは難しい。例えば今夜がただの夜であるなら違ったかも知れないが、怪物の類がさ迷い歩くと古くから伝えられ続けた夜なのだから質が悪い。声を耳にする者は、皆、恐怖に震えただろう。無理もない。
覆面を被った大男は、まさに不気味を体現していた。
ぼろぼろに破けた紺色の作業着と、真っ白な合成樹脂覆面。
右手には大ぶりの肉切り包丁。
まさに不気味の男（ブギーマン）と言う訳だ。
「ウ、ウゥァ」
男は刃を振り上げる。
赤色の雫が周囲に飛び散る。
恐らく、惨劇の舞台となった都市郊外の屋敷の住人のいずれかの命の残滓なのだろう。一歩、遅かった。この日、この夜でなければ間に合ったかも知れない。だが、この夜に目覚める怪異もどきはあまりに数が多すぎた。雷電の速度で新大陸じゅうを駆け抜けたとしても、儚き命のすべては救えない。
だが。この夜、この時。
屋敷の庭で後退りながら目を見開いて白覆面を仰ぎ見る、たったひとりの生き残りである少女だけは救えるだろう。
何故なら――
「お前の声を聞いた」
それは、“彼”が降り立つための。
「ならば、呼べ。私は来よう」」
幾つかの条件のひとつ。
抗い、挫けず、手を伸ばし続けた者の伝説。
「絶望の空に、我が名を呼ぶがいい」
夜の闇を引き裂いて、輝きの中で“彼”は言う。
腰部には機械の帯。両手には機械の籠手。
たなびく黒い襟目気は僅かに雷電を帯びて、白い詰襟には異国のものらしき意匠。そして、周囲に浮かぶのは四本の光剣。
「――雷鳴と共に。私は、来よう」

僅かな音を漏らしながら不気味の男が“彼”へと迫る。
人智を超えた膂力で振り抜かれる肉厚の刃は、命中すればたちまち人体を寸断するだろう。事実、屋敷の住人は少女ひとりを除いてそうなったし、これまでに男は幾人をそうしてきたか分からない。そう、分からない。男自身でさえ、最早、手にかけた命が五十を超えたあたりから数えるのを止めていたし、数字を認識するだけの知能の類も綺麗さっぱり消え失せていた。
「バリツに刃とは。笑止」
短い言葉と共に“彼”は手のひらで肉切り包丁を受け止める。
少女の悲鳴が闇に溶ける。

いつも優しかった下男の黒人は、背後から襲い掛かられた際にああして腕で頭を庇って、腕も頭も断たれたのだから。きっと駆け付けてくれた“彼”も同じことになる。だから少女は叫ぶ。
けれど。
雷電纏う“彼”の手は、びくともしない。
まるで鋼鉄で出来ているように。
「マイヤーズ。私は最早、お前を砕くしかないだろう。お前が望んだ通り、今やお前はバークとヘアそのものであり、パプラスであり、バゴイであり、堕ちたるボガートである」
静かな“彼”の言葉に応じて迸る雷電は、男の手首に刻まれたおぞましいルーン文字を浮き上がらせる。
「死した幻想を邪悪のために呼び覚ます者ども！　私は！」
雷電が、激しく――
「お前たちを許さない！」
眩く輝いて――

■190X年10月某日、学園都市■

十月三一日の万聖節（ハロウィン）が近い。
ハロウィンと言えば勿論大きなお祭りで、子供にとっては沢山のお菓子が貰えるまたとない機会！　元は古いケルトの収穫祭が由来であったと聞くけれど、二十世紀たる現代では、前世紀の合衆国で始まった『カボチャとおばけとお菓子かいたずら』のお祭りの印象が強いようにネオン・スカラは思う。
カボチャのおばけ（ジャック・ランタン）をはじめとする色んなおばけの仮装をして、普段は夜に出歩けない子供たちも夜の街をうろうろ。トリック・オア・トリート！
故郷の森で育ったネオンにとっても、ハロウィンといえばそういうおばけのお祭りという印象が強かった。麓の村の大人たちは新しいものがとにかく好きで、地元の収穫祭と合衆国からやって来た新しいお祭りを混ぜ合わせて、やっぱりカボチャのおばけを作って、子供たちはお菓子を貰って。
「楽しみですね、今年のハロウィンも」
朝。いつもの食卓で話題のひとつに切り出してみたところ。
何だそれは、という顔のマスター・テスラ。
そういえば、以前のこの時期、彼は探偵部の依頼があるからと昼夜問わずうろうろしていて、一緒にハロウィンを過ごせなかったような。そう。確か、そう。可愛い仮装をして家にやって来た中等部の子たちに、お菓子をあげて。
「万聖節はわかる。だが、学園都市に子供はそう多くないのだからあまり関係はないだろう。菓子といたずらは」
「中等部の子たちがいますよ？」
「学問の徒だろう」
「でも、子供は子供ですから」
「ん」

というわけで、首を傾げる彼を引きずって。
今年こそは！
確かに、呼び鈴を押して探偵部邸に「お菓子かいたずらか」とやってくる子はそれほど多くはないものの、用意はしないと。



そのためにこうして出向いたのは、潮騒通りのお店。名前は季節的民間文化研究同好会、とか。要は季節ごとの催し（イベント）に注力することに特化したお店で、その時々で部活動の内容ががらりと変わるのだとか。たとえば今は、ハロウィン用の装飾品やお菓子を手作りであれこれと。

そう、すべて手作り！

本土や大手部活から仕入れたものはひとつもなくて、いまどき機関工場製の大量生産品が見当たらない。流石は潮騒通りというか、勿論、手間と人件費のぶんがお値段には反映されている。

「ほう。悪く無いな。想いが込められている」

「ですよね？」

うん。彼はお気に召した模様。

さあ、あれこれと買い込むとしましょう——

「しかし、あれだ」

「どれですか？」

「潮騒通りで買う菓子の類は子供には些か高い。いや、幼いうちから良いものを与えるのは教育としては間違ってはいないが」

「いいんです。余ったら、お茶請けにしちゃいますから」

「なるほど」

「子供って、どういうものを喜ぶんでしょうね」

「甘いものだろう」

隣でゼリービーンズを探す彼のことは放っておいて。

ネオンはうーんと考えながら、お菓子を見繕う。

さあ、どんなものにしよう？

定番の一揃え（セット）で買い込んでしまうのも良い？　半透明の布で包まれて可愛い包装が施されたものも良いし、カボチャのおばけの絵柄が縫い込まれた袋にたっぷり詰め込まれたものも、中身が全然見えないというのが悪戯心をくすぐる。

と——

「姉さん、その、恥ずかしい…」

「試しに食べてみてと言って貰ったのだし、いいでしょう？」

「そ、そうだけど、自分で食べるよ」

「でも、エーリッヒ。あなた、手が塞がってますよ？」

「うぅ」

聞き覚えのある声。

あの声、もしかして。折角だし、声を掛けて一緒にお店を見て回ろうか、それともふたりにさせておいてあげたほうが良い？

「……こうも祀られれば、未練で目覚めることもないか」

「はい？　なんです、マスター？」

「今度話そう」

なんだろう。

首を傾げつつ、ネオンは聞き覚えのある声のほうへ——

（つづく）

●新殿堂入りのコーナー

『テーマが学校で LOVE&DEAD もダウンロード販売ということはどさくさに紛れてコーナーが復活なのかな！と喜んでしまいました。どうでしょうか？（みぐら）』
　本当に復活したのでみぐらは殿堂入り決定。

●あれから５年後のとある夜　教室

風太（げ……羽里も来たのかよ）
羽里（うわ。風太来てるし）
風太＆羽里（(性格的に来ないと思ってたのに、めんどくさいなぁ。一応、挨拶ぐらいはしておくか))
風太＆羽里『や……』
風太「……久しぶりじゃん」
羽里「そうね。半年ぶりくらい？」
風太「そんなになるか……仕事はどう？」
羽里「まぁまぁ。……そっちは？」
風太「ぼちぼちかな」
羽里「ふーん。ぼちぼちねぇ。……忙しいんじゃなかったの？」
風太「ま、まあ、忙しいよ」
羽里「あたしとは会えないくらい忙しいけど、庄司さんに呼ばれたら来るんだー。へー」
風太「きょ、今日はたまたま時間があったんだよ」
羽里「はー。たまたまねー。そーなんだー。へー」
風太「ちっ」
羽里「あ。でた舌打ち。いっつもだよねー」
風太（うぜー。庄司さん、早く来てくんねぇかなぁ）
葉月「こんばんわぁ♪　二人共早いねぇ☆」
風太「お、久しぶり」
羽里「すぐごまかすし」
風太（無視無視）
風太「四位さんとは……」
葉月「２年ぶりかなぁ？　フータンは相変わらずだねぇ♪」
風太「いやぁ、最近、急におっさんっぽくなってきたよ」
葉月「ん～ん♪　なんかぁ頼もしくなってるぅ☆」
羽里「四位さんも相変わらずな感じだね」
葉月「そぅかなぁ？」
羽里「ねぇ風太、四位さん変わらないよね？」
風太「な、なんでくっついてくんだよ」
羽里「えーいいじゃん、あたしたち、一応まだ別れてはないんだしー」
葉月「えぇぇ！？　二人って付き合ってたんだぁ！！　葉月ショックぅ！！」
風太「つ、付き合ってるっていうか！」
羽里「ふーん。付き合ってないんだー」
風太「あ……そ、その……」
葉月「でぇ！　でぇ！　結婚はぁ！　いつするのぅ！？」
風太＆羽里『けっ！？　け、結婚とかはまだ……』
葉月「えー！？　でもぅお付き合いしてるんだからぁいつかは結婚するんだよねぇ♪　いいなぁ、葉月もすてきな旦那さん見つけないとぅ☆」
風太＆羽里（(うぜー。早く庄司さん来ないかなぁ))
園美「お～ま～た～せ～。みんな～久しぶり～」
風太＆羽里（(やっと来た！))
園美「そこにいくまで～も～ちょ～と時間ちょ～だいね～」
風太＆羽里（(庄司さんも相変わらずだ……))
園美「みんな元気そ～だね～」
葉月「庄司さん元気そぅでよかったぁ♪」
園美「どこをど～すればあたしが元気に見えるんだかな～」
葉月「あ……ご、ごめんなさい……」
園美「倍返しするのは～今じぇじぇ～」
葉月「えっ！？　えっ！？」
園美「園美ちゃんに～まるいちさんだよ～」
葉月「あぁぁっ！　そぅいぅことかぁ☆　で、でもなんかぁ色々違って……」
園美「艦これ～艦これ～園美だソノ～」
風太「あ。球磨？」
園美「そ～だけどそ～じゃないんだよ～。２０１３年なんだよ～。アフターアセンションなんだよ～」
葉月「しょ、庄司さん、落ち着いてぇ話を整理しよぅ？」
園美「Ｌ＆Ｄの～ダウンロード販売が始まったんだよ～」
風太「あー、うん。そうらしいね」
羽里「みたいね」
葉月「あれぇ！？　今日はそのお祝いじゃないのぅ！？」
園美「う～わ～。みんな知ってたんだ～」
風太「庄司さん、知らなかったの？」
園美「し～、知らないわけないよ～？」
風太＆羽里＆葉月（((ウソだ！)))
園美「で～。あたしたちも～２０１３年で大人びたマネしてる場合じゃないんだよ～。広末だよ～。いざなぎ景気越えへゴーだよ～」
羽里「あ。そういえば剛力彩芽って誰かに似てるなぁって思ってたんだけど、庄司さん、似てるよね」
園美「あたし～ゴーリキなんかに似てないよ～。もっと……カワ……イ、イ……」
羽里「そ……そう……だね……」
園美「で～で～ゴーリキなんかど～でもよくて～。あたしたちは～昔に戻らなきゃダメなんだよ～」
風太「なんで？」
園美「世間擦れしたみんななんか～……あ～葉月ちゃんは前とあんま変わってないけど～……世の中に揉まれた風太くんや羽里ちゃんなんか～誰も望んでないんだよ～」
風太「いまさら昔にっていわれてもさぁ。だいたい、どうやって過去に戻るの？　西輪さんがタイムマシンでも発明したの？」
園美「鳩子ちゃんはドラえもんじゃないよ～？　むしろあたし～。あたしこそが～時間を超越する能力を持ってるの～」
風太「……初めて聞くんだけど」
園美「アニメで見たの～。魂は生きてるけど肉体は死んでる美少女魔法使いが～時間を戻ってたから～、あたしにもできるはずだよ～」
風太「美少女魔法使い？」
羽里「まどマギのこと？」
風太「でもあれ美少女魔法使いじゃなくて魔法少女だよな。どっから美少女が出てきたんだろ？」
園美「アア……モー……ウル、サ、イナ……」
風太＆羽里『ぎゃーーー！！』
　しばらくお待ちください
園美「葉月チャ、ンハ……イクヨ、ネ……？」
葉月「ひぃー！　ひぃー！！　…………」
園美「あ～、気絶しちゃった～。ま～い～か～、このまま連れてこ～と」

●某年４月７日早朝　葉月自室
葉月「はっ！！　……あれぇ……夢ぇ？　……ここ……葉月の部屋……あれぇ？　何か……思い出せない……葉月ぃ……どうしたんだっけぇ？　４月……７日？　始業式……？　うっ、頭の中で何かが……」

●某年４月７日早朝　園美自室
園美「あれ～？　あたし～何かした気がするんだけど～……て～も～こんな時間だ～。早く支度しないと～遅刻しちゃう～」

終わり

屋上の百合霊さんの舞台

商科九ッ星女子学園

学園略史

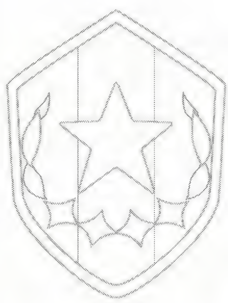


この地図は開発資料なので実際の背景と違う部分が多くあります

結奈達が通う商科九ツ星女子学園は城跡に建てられた歴史ある女子校です。
大正頃の天守閣前に建てられた『星館』を学び舎として創立。学生数の増加に伴い、星館から東西延びた3階建て木造校舎が増築。地元の名門として人気を博します。
榎木サチは、この時期の学生です。

二度目の大戦前に、元城主の住居兼図書室だった鶴館が開放、奥校舎として使用されることとなりました。同時期、小天守だった雲見櫓も改装、遠方学生のための寄宿舎として使われるようになります。
現代では、大きな陸上トラックを擁する二ノ丸庭は、教員達の住居や雑木林に埋もれており、小さな町のような雰囲気だったそうです。

大戦後、施設への被害がなかった学園は、活発に学生を受け入れていきます。星館校舎の両翼は鉄筋の校舎(上から見るとH型)に改装。二ノ丸庭は校庭へと整備。講堂が作られて、ほぼ現在の形となりました。



現在の九星学園校章
輝きを集めて育ち、大きな星になるという学園の理念を示しています。

高度経済成長期。学生の数は増加。
増加数に対して手狭になったという理由で、寄宿舎は学園外に移動。雲見櫓は運動部部室棟、合宿施設として使用されるようになります。永谷恵はこの時期の学生となります。寄宿生を希望していたそうですが、諸事情により断念。しかし「きっときっと素敵だったはず！」と、事ある毎に結奈に愚痴っていたんだとか。

恵の入学直前に星館校舎は現在の形になります。
同時期、木造である星館の取り壊しが検討されたのですが、ここは学園の顔であるとした学生たちが反発。大座敷を本拠に反対運動を繰り広げ、保存を勝ち取っています。(「星鍋運動」として学園史に記録)

現在。九星学園は長い歴史を土台とし、上地図のように立派に存続しています。そんな舞台で繰り広げられる百合物語。未見の皆様、ご一読如何でしょうか?

九星時報

☆☆最終回☆☆



ハロウィンパーティー
（PN=如月,PN=ユリトピアン3世）
サチ恵で百合ウェディング
（PN=なぎまり）



応援団長風な愛来様
▼（PN=グアゼ）

冬間近なユリトピア！ 九星時報最終回。しんみり行こうかとも思いましたが、重大発表が飛び込んできました！ サチさん、恵さん、お願いします。

■呪！ ドラマCDが出ます！
サチ「はい。すでにネットで告知されていますが、屋上の百合霊さんドラマCDが制作進行中です！」
恵「第一弾の主役は阿野藤ちゃん！ 結奈、比奈ちゃん、音七さんの４人が過ごす2013年冬の一幕が描かれちゃう！」
サチ「待って、恵。第一弾？」
恵「そうですよ、サチさん！ このドラマCDはシリーズ化予定なんです。ちゃんと売れればなんですけどね……」
サチ「世知辛いのねぇ。でも、大丈夫。ここまで来れた皆の応援があれば」
恵「ハイ！ ドラマCDの情報は順次告知されるから、ライアーソフトの公式ページをチェックしてね。他にも動きがあるかもよ～！」
サチ「よろしくね。じゃあ、展開作戦の先陣を切ったボーカルCD集ぷろじっとの感想メールをお届けします」

■PN=もっち
「Prosit!」絶賛ヘビロテ中！ 『いとしコトバいとしココロ』コロコロかわいかったです！ ツインボーカルの反省は次回に活かしましょう、Pegさんのイラストの中にはまだまだ見守るべき百合っぷるがいるはず…！
「Prosit!」のいずれ劣らぬ名曲群の中で、『a new day.』がトリを務めていること、何だか少し誇らしいです。夜明けの結奈比奈、愛ですね！

月代「愛よね～」
桐「ボーカルinコトココは好評みたいだね。コーラス超増加バージョンを入れたいって野望もあったみたいだけど」
月代「ふぅ！ ふわふわ！ をみんなでやるの？」
桐「そうそう、あ！ コーラス全部月代ちゃんバージョンとかもいいね！」
月代「そう……かな？」
桐「そうだよっ！ ずっと耳元で月代ちゃんがふわふわ言ってるパラダイス！」
月代「はいはい。新規描き下ろし絵の子達も気になるところね」
桐「いつか語られる日は来るのか！」
月代「ドラマCDでの出番はいつか！」
桐「第二弾あたりと見た。私と月代ちゃんがずっとドライブしている」
月代「え、それは楽しいのかな？」
桐「私はとっても！」

■PN=えるく
結奈さん、受験勉強捗ってますか？
比奈ちゃんからの誘惑を堪えられていますか？ 比奈ちゃんがたまらず暴走することを心から期待しています。
いや、逆に結奈ねぇからってのも・・・

比奈「……がんばる」
結奈「え、がんばっちゃうの？」
比奈「ん」

■PN=悠季
百合霊のお二人の記念日の続きが非常に気になります。もう少しだけ教えてもらえませんか？

恵「秘密の記念日も多いからなぁ……」
サチ「ふふ。結奈さんと出会った記念日とかね」
恵「秘密だけどね！」

■PN=メンタン
屋上の百合霊さんってこの作品に相応しいぴったりなネーミングですが他のタイトル候補とかもあったのですか？

阿野「最初は『屋上楽園』という名前だったらしいよ」
恵「ライアーに企画持ち込む前の話ね」
阿野「な、ナチュラルに話しかけてくるんですね。恵さん」
恵「いいじゃない。見えてるんでしょ？ 続けて続けて」
阿野「は、はい、持ち込み段階では「屋上百合霊」。このままだとホラーっぽ過ぎるので「屋上の百合霊」。これでも固いので「屋上の百合霊さん」という形に落ち着いたんだって」
恵「マイルドかつ可愛くしたワケね」

■PN=Tagosaku
ちょうどサチさんが席を外しているようなので、恵さんに聞いてみたいことがあります。サチさんの個性的なネーミングセンスについて、率直にどう思っているのでしょうか？

恵「当然かわいいと思ってます！」
結奈「キラキラ作戦はちょっと呆れてたじゃない」
恵「そんなことありませーん……キラキラとかドキドキとか、そういう言葉遣いは恵の癖がうつっただけだし」
阿野「そうだったんだ……ところでサチさんは何処に？」
恵「うふふ……主役に大抜擢の阿野ちゃんを特訓しようと準備中」
阿野「え!?」
結奈「準備出来たから呼んできてって言われたのが私」
阿野「なんとっ！」
恵「さ、屋上へ！ ただのお茶会だから。おめでとう阿野ちゃん作戦だよ！」
結奈「心構えを話すだけだってさ」
阿野「ただでさえプレッシャーでぐるぐるなのに～」
恵「わたしとサチさんと結奈がサポートするから大丈夫。得意なのよサポート」
結奈「まぁ、経験者だしね」
阿野「うう……お手柔らかにお願いします」
恵「では、新たなスタートへ前進！」

ドラマCD第一弾は年末発売予定です。
百合霊さんの新展開、ご期待下さい。
今までありがとうございました！
これからもよろしくお願い致します！

星織駅蒐集箱 学艶編

アステライト ― シュウシュウバコ

―― 光臨後日談 ――

それは、紆余曲折の果て、永年の歳月に渡って封じられてあった、駅の航宙港としての機能を蘇らせて暫く経った頃のお話。遠い過去に築かれて、航宙港機能封印時より長いこと忘れ去られていた、駅の直上遥かな高度、宇宙空間中に浮かぶもう一つの『駅』である、独立循環環境型超巨大構造物、通称『上の駅』との通信往来を取り戻してから、ようやく数週間ほどが流れた頃のお話。

頭上に茫漠広がる空の彼方に、宇宙という測り知れぬ遠大な世界があるという事実など、この時代の駅の人々にはなまじの伝説神話より風化して、記憶する者とて殆どが絶えていた。それがある日唐突に再来したのであるから、その驚愕と困惑たるや察するに余りある。それまで生きる世界の全てと見なし、のんびり泳いでいた水中が、実は大海の上に漂っていた金魚鉢の一つにしか過ぎなかった、と告げられたメダカの如きもので、なんで認識が追い付いたものだろう。『上の駅』は一時降下してその偉容をもって駅の頭上に蓋したものの、その後再び大気圏外に脱した。が出現と同時に大空に展開されたる、熾天使が綴った花押にも紛う巨大な光の紋はいまだ置き残されてあり、駅の人々の心を騒がせて止まない。

そしてこの度の航宙港機能と『上の駅』の復活劇は、主に二人の駅の住人の行動に起因していると言えば、誰しも加えて呆気に取られよう。それも要職や高位に就いた者ではなく、三界に、宿も身寄りもまともな仕事も持たぬ、一介の浮浪児二人であったのだから、呆気に取られて開いた口の、顎が外れて塞がらなくなる態の超椿事であったとも。『駅』の歴史において一大転回点となったこの事態、引き起こした二人の浮浪児が現在いかに過ごしているのか、駅の地表を埋め尽くした積層建築の混沌の中から、蟻塚の小房の一つをほじくり返してみるように、ミクロに焦点を合わせてみよう……。

◆　◆　◆

その二人、ファム・アン・トゥアンと瑛という二人の「駅の浮浪児(ステーション・チルドレン)」であるが。駅の航宙機能の封印を解き、『上の駅』を空と時代の彼方より呼び戻した張本人として、さて一体どれくらい持て囃される事になるのやら。時代の寵児、埋もれていた英雄として賞賛され、名声と栄達などは欲しいまま。或いは民衆は急激な変化を好まない、騒乱の火種となったとして人々からは忌み嫌われ当局からは過剰に盛り込んだ罪科を被せられ、若い生命を極刑の元に散らす、そんな末路だって有り得よう。栄誉か、横死か、いずれにしても極から極に振れるのが扇情的な事件の中心人物の定石であるが、さて。

二人が今過ごしているのは、駅の片隅人口過疎地区の、廃止せられた天候観測塔内の錆びた鉄階段の踊り場、屑と廃材にて構成された、烏の巣と同じ程度には優雅なねぐら。本日の朝餉とも昼餐ともつかぬ食事は、淡水生の貝を薄味で茹でて香菜を添えたものと言えば結構な料理に聞こえるが、内実は線路脇の側溝に繁生していた溝貝(どぶがい)をなけなしの塩胡椒で煮て、同じく線路脇に自生していた水芹をちぎって振りかけただけの簡素で、貝も菜もどんな汚水を吸ってどれだけ煤煙を浴びているやらの代物と言えば衛生面に敏感な者なら食欲の減衰を招こう。つまるところあれだけの大事件を巻き起こしていながら、二人は今のところ今まで通りの浮浪児に過ぎず、その日暮らしに身を窶したまま。変化らしい変化を探すなら、二人の関係性が相当する。それまでの二人は、駅での浮浪児暮らしの厳しさに、それぞれがそれぞれを支え、庇い、時には喧嘩も交え、貧しいながらもおおむね元気の良い友情と相棒精神によって結ばれてあった。それが事件の渦中、精神的にばかりか肉体的にも繋がり合う、との関係の変化を見た。

トゥアンも瑛も打ち見た限りでは薄汚れた男子であるから、同性の友情の一線を越え、V感覚の快美より先にA感覚の深みに嵌りこんだかと危ぶまれるところ、瑛の方が実は稀有なる両性具有者であり、少年でもあり少女でもあったりしたものだから事態はややこしい。

そんなこんなで、それまでは二人のねぐらは文字通りの寝座(ねぐら)、はした仕事の一日に疲れ切ってぐったりと、あるいは仕事にも食い物探しの当てにもあぶれてごろごろと、寝て過ごすための空間であったのが、このところ別の意味合いを帯び始めている。その上、今日で四日も絶え間なく降りしきる雨に降り籠められたに加え、『上の駅』出現の事件に関してあって然るべき駅当局からの追及の沙汰がないという不可解が、二人をどうにも不安にさせた。僅かなりともその鬱屈を晴らしたいと願う心が呼び水となって、水を向けたのはどちらだったのか、トゥアンが強めに押し切ったのか、瑛が曖昧に許してしまったのか、まあどちらでも大差ない事だ、二回目のセックスがたちまちそのまま三度目となり四度目となり止め処もなくなった後となっては、今更。

「やばいなぁ……んっ……まさかボクがこんなになっちまうとは……はぁ…っ」

廃観測塔の屋上の、浮浪児二人が暮らしの用水に供する雨水槽の下である。時刻は午後の頃合いなのに空は灰色の暗さ。いまだ降りやまず、もとより肌を湿して糠づく小雨の中で、更に上から溜まり水を掛け流して、殊に丁寧に股間を洗う瑛の、愚痴へ混ざる吐息に温さが籠る。わざわざ小雨の中に出てきてまで肌を浄めている瑛の、浮浪児としては普段から清潔な部類だとしても念の

入った事であるが、それも頷かれるところ。内腿にぬめりつく粘い汁をそのまま放置していては、寝床でどれだけいかがわしげな臭気を放つことやら、だ。
「だいたい今日だけで何回だヨ……ひぃ、ふぅ、みぃ、よぉ……」
　厄介の苦味を山盛りに口に詰めこまれた顔で、指折り数える瑛に引き換え、その青銅色の肌を拭うトゥアンは目つきも清々として、かつ精気に充たされ、美味をさんざかかっ喰らってなお飽きぬ、の風情もありありと。憮然と爽快との対照がそこにある。大体トゥアンは瑛に身づくろいに引っ張り出されたものの、男女の身体的構造の差違からして沐浴も簡単なもので、端切れを絞って拭うだけ、といかにもぞんざいな手つきでさっさと終えた。なおも股間に水を打ち流し続ける瑛へ、手伝おうと差し延べた手が邪険に払われる。
「さーわーんなー。つかそうやってボクに触ったら、オマエまたとまんなくなるだろ。わかってンだぞー?」
「……手伝おうってしたんだけど。なんかいつもまでも洗ってるけど、拭いておくだけでいいじゃんか、さ」
　初回からして瑛の両性具有の性器にも、物怖じするどころか日頃の大人しさをかなぐり捨ててのめりこんでいったトゥアンである。手伝うつもりもあったが、性交の再開をねだる気持ち無しとは言い切れず、どうにも口は言い訳じみた。
「しょうがねえだろ、いつまでも出てくんだから。オマエが好き勝手出したからだぞ。てかトゥアン、オマエあんだけ出して、まだ萎んでねぇのかよ。エロすぎだろいくらなんでも……」
　トゥアン少年の股間では、なるほど、いまだ硬度が抜けず角度も上を向いて余力を示しているでないか。勃ちの名残り、兆し程度なのに、瑛の性器の男子の部分と比して、あきらかに大振りで未成熟ながらも確かな雄を示唆するそこに、両性具有者は呆れと畏れの入り交じった困惑に、知らず腰が引けていきそう。
「それはその……だって君とその……スるの、すげえ気持ちいいし。気持ちいいのがまだ残ってるみたいで、瑛を見てるだけで、またなんかその」
　口振りだけは濁していても、少年の雄のかたちは何とも率直に、情欲の矢印に指してきていて、瑛をして自身の中に埋め込まれていた際の感触、存在感を想起させる、させてしまう、どうしても。
「あんなに良いの、何回したって飽きやしないってば。瑛はどうなのさ」
「ボクぁ、その……いいだろそんなのどうでもっ。とにかく！　無しだかんな、もう今日は!!」
　これまでの二人の暮らしでは、浮浪児としての経験の長さと見聞の深さから、瑛の方をどちらかと言えば先導に置いていたのに、このままではその順列が情交方面からひっくり返されてしまいそう。回数を重ねるに従い、それまで噴き零す快感しか知らなかった瑛にして、流し込まれる悦美に目覚めつつあって、今のままでは少年の精力に流されてしまいかねない。今だって声を張ったのも、そんな風に知らず気圧されてしまいそうな自分を糊塗する為もあったのだった。うん、とトゥアンが素直に頷いてみせたのだって、何処まで本心からなのやらと、瑛は唇をむくれさせて、水浴びをようやく切り上げる。水気を切ったところで霧雨の下では、しつこく肌は湿った。

◆　◆　◆

「だいたいな、トゥアン、オマエ、ボクとセックスするのばっかに夢中になってないか、ああ?」
　屋上の水場から、廃ビル内のねぐらに戻って、胡坐になったトゥアンの前に立ち、ことさら短躯を伸び上がり坊主、踵を浮かせて説教している瑛がある。普段は錆びついた鋼板に万年床にしてある、臭い毛布をわざわざ片隅に畳んだのは、敷きっ放しではまたうかうかと二人でごろ寝してしまい、でうっかり体が触れた弾みで情事が始まりかねないと危惧しての事。
「せっかくボクが『上の駅』に上がんぞ、って誘ったのも蹴りゃあがってよ。あん時ゃ近道とかしねぇでこの駅で地道にやってくー、なんて啖呵切ったのに、情けねえったら。そんな事でどうやって航宙士になるつもりだか」
「まあ、一にも二にも、勉強するしかないだろう。その辺りは僕だって考えてる」
　相棒の口小言に反撥するでもなし、考え深げに応ずるのは、トゥアンが真実それを願っている事なのだろう。航宙士を目指すと、一大目標にしているからであろう。航宙士。この時代の『駅』の公文書記録棟では、奥のそのまた奥深くに、かろうじて超機密資料としてのみ残されている、星々のただ中を飛翔していく者達。このどこか茫洋として、時に沈鬱な眸を見せるトゥアンが駅での浮き草暮らしの果てに見出した願い。たとえこの少年には大それた願いだとしても、彼が少年である故に、その可能性は常に開かれている。
「へえ……その顔は、大真面目に言ってるみてえだぜ。まあいいよ。それは信じてやるよ。でもどうやって勉強とかするんだ、浮浪児のボク達が」
「そういうのって、やっぱ『学校』とか通わないとだめなのかな」
「学校だぁ?　学校ときたかトゥアン様よう。オマエ、学校なんか通ったことあるのか。言うまでもなくボクはないからな」
「僕も話に聞いただけだ」
　瑛も何時しかトゥアンの前に腰を下ろして、二人で鋲が打たれた鉄階段の段々を見上げして、思い浮かべるは学校なる場処の事。浮浪児二人がこれまで無縁であった世界の事、ほわりほわりと、頭上のそれぞれの想像図の球体が浮かんでは漂う。
「僕たちの知ってる奴だと……アージェントとかどうなんだろ」

「アイツ確かにガリ勉っぽい面してるけど、ボクが知ってる限りだとずっと映画車輛ころがしてっから、たぶん行ってない」
「でもとにかく、駅に学校てあるよな。駅員でも軍隊でもないのに、制服着て歩いている奴らを見たことあるし」
　表通りなど駅の整備された区画で時折出くわす、制服姿の少年少女は、軍隊というには武張らず、駅員というにも職業臭が薄く、トゥアンの如き浮浪児にとっては奇異なる生き物であった。妙に身綺麗で、話交わす言葉もまた、別の世界の言語のように縁遠い児童たち。まったくと言って良いほど接点がなく、トゥアンには実態が掴みかねたけれど、それでも学校生徒であろうと推測はつく……ただし実状は、駅にあるのは官制の職業学校が殆どで、子供たちの為の普通教育機関というのはない。トゥアンが見た生徒たちの実際は、物好きで富裕な篤志が設けた私塾の塾生たちなのであった。
「あああいつらか。でもあいつら、金持ちの子供ばっかだろ。金に困ってねえから、授業とかも受けてられるんだろうよ」
「授業か――どんなんだろうな、同じ建物の中でみんなで勉強するって」
　ううむと思い浮かべる、二人の頭の中で。例えばトゥアンの中では。偉いセンセイが教授する未知なる知識を、聡明な若者たちが真剣に聞き入って学び取る、といったどこかしら神聖な情景なのだが。これが瑛の中では、学校での勉強など腹の足しにもならない七面倒な繰り言に過ぎぬし、教師などは嗜虐趣味、生徒と言っては被虐趣味の気がある変態の一種、授業中には懲罰の鞭の音に酔いしれる教師に、泣き叫び、時には苦痛のあまり錯乱して涎や大小便を垂れ流す生徒たちの一大狂乱見本市、程度の認識である。
「瑛は知ってる？　勉強だけじゃなく、体育って、体を鍛える事もするらしい」
「知ってらぁ。学校の前にはなんか空き地があっけれど、あれは畑にすんでも家を建てるんでもない。あそこで体育をやるんだ」
　例えばトゥアンの中では、体育とは知能ばかりではなく体力も鍛える為、しっかりとした指導の下に皆で整然と体操したり球技にうちこんだりする、疲労さえも心地好くある筈の秩序だった運動の時間なのだが。これが瑛には、別に飯や小金をせしめる為に必死で駅の中の駆けずり回る必要もない連中であるのに、わざわざ運動場に引きずり出されてぐるぐる走り回らされ、教師の革鞭や木剣に小突き回され泣こうが吐こうがそれこそぶっ倒れるまで、汗はおろか血と大小便を地に沁み込ませるための地獄絵図、であり。
「授業とかの他にも、センセイは悩みとかの相談に乗ってくれるってても聞いた」
「あー、なんか、勉強だけでなくあれこれやらされるらしいな」
　トゥアンの中では、人生経験に富んだ教師が、生徒の日々の悩みに親身に道を示し、時には解決の手伝いさえもしてくれる、という事になっている。これが瑛の中では、権力を笠に着た凶悪な教師が、落第放校を脅しに、男子相手なら痩せ細り頭髪が抜け落ち気が狂うまで、奴隷も怖気を振るうほど酷使して、女子で特に見眼麗しい生徒なら、強姦して妊娠堕胎はまだ手始め、裏路地に立たせ客を取らせ、女子生徒の心身どころか買春した愚かな客の財産を恐喝し社会的地位を破壊して一家離散一族壊滅にまで追い込むのだ、の図式が描かれている。
　とこのような、それぞれに披露した意見を吟味した果てに。
「……なんか、オマエは学校ってのに夢見すぎてないか？　そんな楽園があんなら、子供だけじゃなく大人だって入りたがんだろ」
「……なんか、瑛の話だと、学校って刑務所とか、僕たち浮浪児が捕まって叩き込まれる施設の類にしか聞こえない」
　どうなのだろうと、最前まで、セックスの頻度について検討し合っていた早熟な姿もどこへやら、額突き合わせてあれこれ思惟巡らせる二人であったが、次の事柄については意見の一致を見た。
「……後、学校って、給食ってのもあるんだよね？」
「トゥアン、どうしてオマエはそれを先に言わないワケ？　ああ、給食。昼飯だけらしいけど、臭くない飯を食わせてくれるのは、いいよなァ……」
　たとえそれが日に一度であろうと、決まった時間に清潔な食事が提供される、なんと素晴らしい、素敵で、贅沢な時間である事だろうと、トゥアンの口中には唾が満ち、瑛の下腹がくくぅと鳴り、一時は性の快感で脇に除けていたものの、満たされぬ腹もあったのだと思い出してはどうにも切ない。刑務所や矯正施設では、食事すら陰湿な虐待にされると知り抜いていながら、この浮浪児二人が給食なる事柄に関して、なぜそれだけ夢を見ていられるのかなかなかに興味深い。むしろそれだけ二人には日々食いつないでいくのが困難で、切実であったとも言えよう。
「給食があんのなら、ボクだって学校行きたいやな。でもどうすりゃ入れるんだ、金も無しで」
「うーん……あ。潜り込むだけなら、制服があればどうにかなるかも。だってあいつら、みんな同じ制服だから、顔の区別とかつかないじゃん、ここの駅員みたいに」
　――その時は、トゥアンの発想が、彼の喉を金の管と通して、仙女が送り込んだ天啓とすら受け取れたのだ。だから、瑛は、トゥアンは。

◆　◆　◆

「―――おいトゥアン、テメェよう―――」

数日来続いた鬱陶しい雨も何処へやら、晴れ渡った空の下、浮浪児二人がねぐらとする廃観測塔の前である。それをトゥアンが何処からどの様に調達もしくは偸盗してきたのか、それ自体も相当に興をそそる物語なのだが、今現在の瑛の姿の前には色褪せる、というかどうでもよくなる。

「いや、さあ。それしかめっからなかったんだよ。しかも一着だけっか。だからまず君のが先のがいいかって」

まず自分ではなく相手が先と、譲り合いの心、朋輩への思いやりは浮浪児暮らしの泥中にあって麗しい、と言えば言えるが、瑛には修辞を弄んでいるようにしか聞こえない。

それは、制服という語がもたらす、堅苦しく野暮な衣装からはかけ離れ過ぎていた。上着はなまじの下着よりも薄く丈が短く、下衣はそこらの水着より布地面積に乏しく形も露骨に過ぎた。

「オマエこれマジでそう言い張るつもりか!?　これ、こんな、こんなの……っ」

「まあ、体育で着る体操着ってのらしいけど、制服は制服だって」

それの、脇や裾の裁断は、通気性よりもっと別の用があるとしか思えないくらい大胆で裁断され、下腹を剥き出しにし太腿を付け根まで露出させた様は、下手に運動などすれば更に食い込むことが容易く予想された。

「バカヤロ、こんなんで動いたら、いろいろ食いこむし、ぽろんてはみ出しちまうわっ」

「えー、そうかなあ。ちょっと動いてみてよ、瑛」

と促すトゥアンに、軽く屈伸して見せればたちまちに、捲れ返るやらずり上がるやらで目出度いざまとなる、自分にまず気づいて瑛はそれからトゥアンの口許のひくつきを知り、恥辱に全身朱に染めて、掴みかかったもののすんでで躱された。そこから始まる追いかけっこ、浮浪児二人は世故に長けているようでいてまだ幼い。激怒に自分の格好も忘れて疾走している瑛も、ちらちらと露出する肌に目を奪われてすぐ捕まりそうになるトゥアンも。

しかし、まあ、こんなのをトゥアンに言われるままわざわざ着込んで出てきたあたり、この件については瑛の方が相当に迂闊としか言いようがないわけで。

「うわあ。瑛、学校ってそんなエロい服着て行くものなの?」

「トゥアンてめぇ……。判っててやってるだろうっ。お前が着やがれこん畜生ッ」

その晩は、なんだかんだと大層盛り上がったそうな―――

――光臨後日談・了――





『星継駅シリーズ』第三作ヴィジュアルノベル。

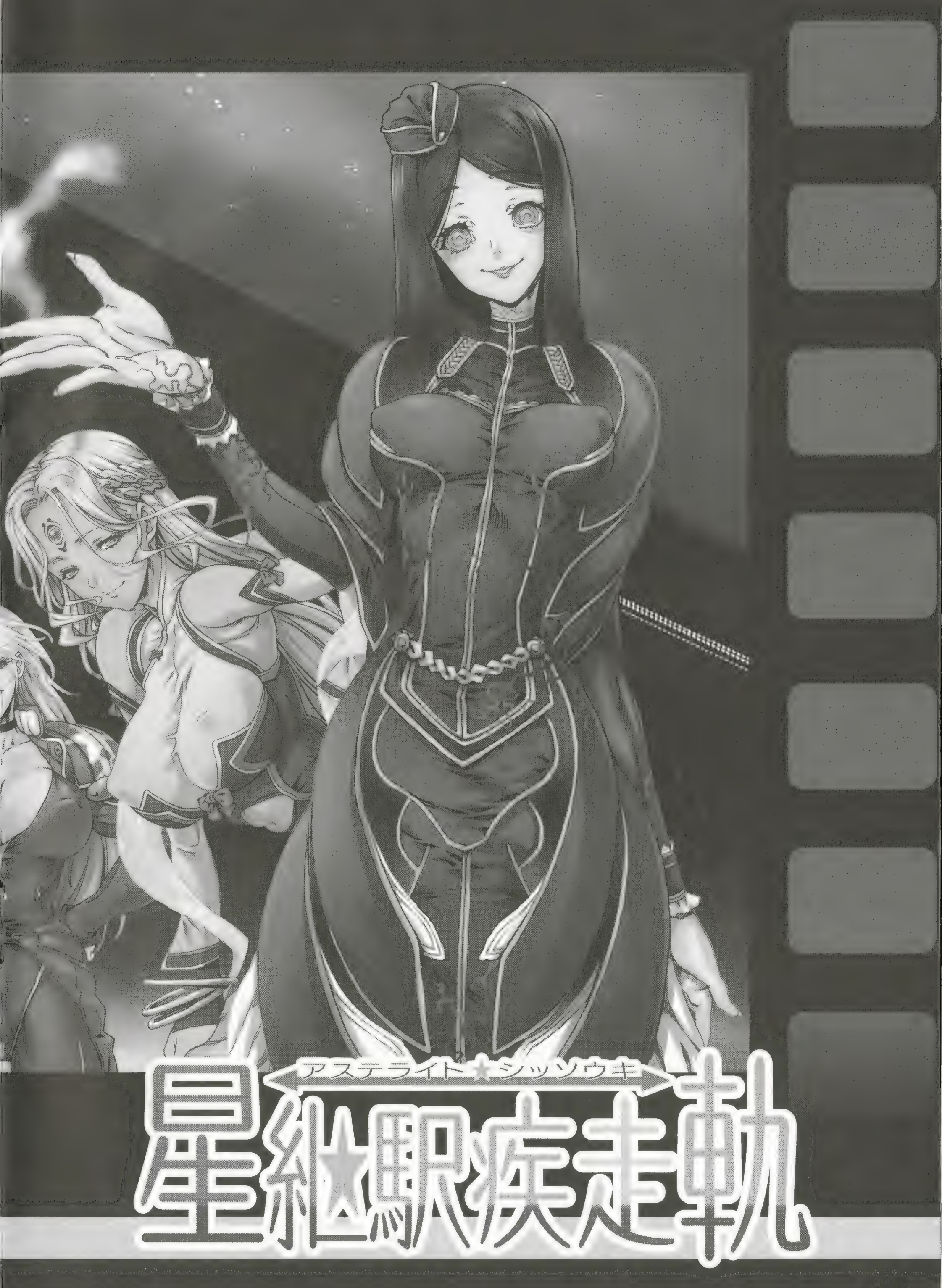
舞台は、**過去、現在、未来**の人々を呑み込んだ

長大なる異形――**亡霊列車。**

2013年12月20日 発売予定　FC価格：3,800円

企画・シナリオ：希　原画：キャラクター原案：浦辺克斗　メインBGM：さっぽろももこ

レイル文庫最新刊「星継駅疾走軌外伝・列女修業時代」も通販開始！


アステライト★シッソウキ
星組★駅疾走軌



今日のゲームはこれ!
ギャラクシートラッカー!!
わー
GALAXY TRUCKER
どんじゃらー
蔵女とエマの
GALAXY TRUCKER
たのしいゲームコーナー
平たく言うと、部品を組み合わせて宇宙船を作って、惑星から資源をかっさらうゲームです
へー
ん?
ムフーッ
キャノン!
エンジン!
でも大切なのは発進前の検査です!
2個持ちはルール違反だよー
シールド!!
正しいコネクタ同士でつながってない部品はそこから先が全部もげてしまうのです!!
キャノーーン
コネクタには三種類あります
わぎゃー!?
ぽろっ
あ、蔵女これ・・・
え?
待てー!
ははははは
発進したあとは順位を競いながら資源の取り合いです!
それでは気を取り直して・・・今度こそ発進!!
ゴウン
Seven-Bridge?

正解とはなりませんでしたが答えを投稿してくれたJohnny-Tさん、
悠季さん、あかべこさん、雪あとむさん、竜宮さん有り難うございました!



次回予告：涙ながらに復讐を誓った蔵女がエマにリターンマッチを申し込んだ!
そのゲームとは!? （ヒントは2人対戦／お城／最近出たゲーム　だ!!）

■女雪相撲よ、永遠に！！

『侘助……いいえ、昔の私！　私のいうことを聞かないと小百合さんが死ぬの！　だから私を信じて！』っていわれてもさぁ、普通は信じられないよね。だって大学５５年生のあたしっていってるのに、今のあたしを同じ見た目なんだよ？　７０歳超えてるのにだよ？
　でも信じられないのは信じられないんだけど、なんか――

「…………」
「どうした侘助」
「あの人、目がマジですよ？」
「だからどうした」
「ウソはついてないんじゃないかなぁ……とか……」
「ふむ。ではそちらの侘助に問おう。私が死ぬとはどういう意味か」
「それは――」

　あたしたちが未来のあたしから話を聞いてる間、三ツ葉さん達の方も大変だったみたいなんだぁ。

「さて、最初は誰が来るダスか！　このWWSSC認定鬼百合が相手になるダスよ！！」
「では私が参ります」
「マイの海関、待ってください。あたしが、行きます」
「雛菊さんが？　……いえ、やはりここは私が」
「すみません。裏切り者呼ばわりされては黙っていられません」
「なんならまとめて掛かってきてもいいですよ？」
「へー、百合根ちゃん、いうようになったねー」
「若い身体のまま経験を積んだあたしたちに勝てるとでも思ってるんですか？」
「経験ねー。……ま、でもその経験の中にゃぁ本気のアタシとやった経験はないんだろ？」
「瑞樹ちゃんがどれだけ天才でも、今のあた――」
「お前ら一斉に掛かれ！」
「え！？　三ツ葉黒関、さすがにそれは……」
「こいつらが『いい』っつってんだからいいんだよ！」
「お、押忍！」
「あ、あれ！？　第２０代鬼百合さんの話と違うダス！？」
「ほらっ！　蝶子とかもボケーっとしてねぇで掛かれ掛かれ！！」

「ダスぅ～～……」
「さーて百合根ちゃん、アタシらが裏切り者ってどういうことなんだ？　じっくりと聞かせてもらおうじゃねーか」
「お姉ちゃんが余命三ヶ月って判った時、第２０代鬼百合さんが準備してたピラミッドスリープ処置で医術が進歩するまで眠っててもらおうって……でもそれを邪魔しようとしたのが！」
「アタシと雛菊ってことか」
「マイの海さんも悩んではいましたけど、結局はあたしたちに味方してくれたのに……なのに瑞樹ちゃんたちは……」
「多分だけどさ、小百合はそんな延命なんか望んでなかったんじゃないか？　んでなきゃあアタシはともかく、雛菊まで延命の邪魔するとは思えねーんだけどなぁ」

「……あのさ、本当にあなたがあたしとして一つ聞きたいことがあるんだけどいいかな？」
「『このあとあたしたちは元の世界に帰れるの？』か。」
「すごーい！　小百合さん！　この人すごいですよ！　あたしの考えてること予知してます！！」
「第２０代鬼百合が本当に侘助であるなら凄くもあるまい」
「ああ、そっか。す、凄くなんかないぞ！　あぶなく騙されるところだった」
「騙してはいないけど……答えはイエス。あなたは私と立合って、負けて過去の世界に戻って小百合さんを助けるための活動を始めるの」
「……その結果がこれってこと？　新宿にピラミッドのある世界？」
「ピラミッドパワーと女雪相撲力の親和性が高かった……それだけのこと」
「整理しよう。侘助は私を救うために元の世界へ戻り日本を砂漠の国に変えたのか」
「いいえ。日本ではなく世界です」
「ふむ。ならば尚更か」
「『侘助、あいつを止めろ』というんですよね」
「判っているんだったな。ならば話は早い。行け、侘助！！」
「や！　ちょっと待ってくださいよ！　あそこのあたしは知ってても、ここのあたしは何にも知らないんですってば！」
「御託は勝ってから聞いてやる！！」
「ぎゃん！！」
「行け、侘助！」
「ど、どすこいっ！！　……で、でもあたし負け確定なんですよね」
「その通り。若い私は負けて元の世界へ帰り、小百合さんは今の小百合さんを生き返らせるためにここに残る運命なの」
「残念だがそうはならん。お前にとっては二度目……過去に過ぎないことかもしれんが、この侘助にとっては初めての、つまり今の出来事だ。お前がこいつの未来の姿である以上、こいつは今、自分の手で未来を変えることができる。それが人というものの……本当の女雪相撲の力だ！！」
「あの、小百合さん。でもそれって観測点があたしの場合であって、あっちのあたしを観測点とした場合はこれからの立合いって不変の過去ですよね？」
「えええぇいっ！　理屈は勝ってから考えろ！！」
「にゃふん！！」
「わかったか！！」
「ご、ごっつぁんです！！」

　そ、そんなの当然じゃん！　あたしだって大輪女子の女雪力士だよ！？　立合う前から負けることなんか考えるわけないって！　本当だってば！　何しろ小百合さんから直々に気合い注入のビンタしてもらったんだもん！！

（これで負けたらシャレにならないよねぇ。でもあの人が本当にあたしなら……大学５５年生だったっけ？　５４年間分の経験の差はあるわけで、その上あたしの心も読めちゃうし……あたし、勝てる要素ないんじゃない？）
「不安でしょ？　あたしも不安だったし」
「ふ、不安なわけないじゃん！　つか若いままなのってドーピングしてるからでしょ！　不戦勝であたしの白星でいいよね？」
「残念でした。これもピラミッドパワーなのよ。プロの東西両鬼百合は見たでしょ？」
「なにそれ。そんなの見てない」
「サモちゃんと小百合さんの妹、っていえば

判るかな」
「あ。ああ、いたかなぁ」
「あの二人もそうだし、マイさんやシバちゃんも若いままよ」
（５０年以上経っても若いまま……もしかして悪くない？　って、そうじゃなくて）
「みんなはどこにいんの？　もしかしてピラミッドの中？」
「東西両鬼百合はあたしの手足になって世界中飛び回ってるけど、他のみんなは世界各地の支部長してるの。あ、シバちゃんは小百合さんの看護で日本に残ってたっけ」
「……本当に小百合さんは死んじゃうの？」
「あと１年半経てば判るよ」
「あたしがここで負けて元の世界に戻れば小百合さんは助かるんだ」
「その通り。判ってくれた？」
「侘助ーーっ！！」
「どっ！？　どすこい！！」
「お前はそいつと私、どちらを信じる！！」
「どす！？」
「私が身を患い病に死ぬ運命にあるとするなら､私はその運命を変えてみせる！　だから！　お前はお前の運命を変えてみろ！！」
「その言葉にー！　あたしは騙されたんです！！　その言葉を信じてっ！　勝ってっ！　みんなで元の世界に帰って！　でも小百合さんは倒れた！　告知を受けるまで気づかなかった！！　だからあたしはっ！　愚かだった昔の自分の過ちを正さなきゃいけないんです！！」
「え！？　……あたし、ここで負けるんじゃないの！？」
「いいからあたしのいうこと聞きなさい！」
「私を信じろっ！！」
「あーもーどうすればっ！！」
「ならば私を信じるな！　そいつも信じるな！　侘助！　お前自身を信じれば良い！！」
「あたし自身を……」
「その目……やっぱり立合うことになるんだ。せっかく過去を正せると思ったのに｡いいの？　５０年、その判断を悔いながら生きる事になるのよ？」
「第２０代鬼百合っ！！　お前も鬼百合の名を冠するのなら己の未来は己の手で切り開け！！　負けて悔いが生まれるなら勝てばいい！　過去を変えられぬなら未来を変えてみろ！！」
「はっ――」

……うん。その時の未来のあたし、ちょっと嬉しそうだった。

「小百合さんは……小百合さんだった……」
「もうやるしかないよね」
「うん」
「いくよ、未来のあたし」
「きなさい、過去の私」
『どすこいっ！！』

どっちが勝ったかって？　どっちでもいいじゃん、そんなの。このあたしでも、未来のあたしでも、どっちにしてもあたしが勝ったんだから。

……でー！！　そっからがまーた大変だったの！！　だって本当に行くはずだった未来はダリアちゃんのいた未来なんだよ！？　それが全然違う未来に来ちゃって……このパラレル世界から離れるには分岐する直前の過去まで戻って、そっからダリアちゃんの未来に行かなきゃいけないのに、思いっきり過去に戻りすぎちゃったんだよ。んで女雪相撲の歴史を垣間見たり、そっからやっとダリアちゃんの未来に行けたけど、また問題が起きたり……って！　もうこんな時間じゃん！　終電間に合わーーえ？　マッサージ？　いいよ、そんなの。明日も稽古あるし。んじゃ、またね♪

終わり



『1909：薔薇の仮面』

■１９０９年某月某日、深淵宇宙の何処か■

──暗い場所。
──薄暗い、ジャズ・ミュージックの流れるバーだった。

ある種の神殿を想起する者もいるだろう。グリースやローマ、北欧、エジプトやインドのそれか、南新大陸に遺された太陽と生贄の神殿か。それらのどれでもなく、それらのどれとも似通うと感じる者もいる。
薄暗さに、暗黒の気配をこそ思う者もいるだろう。
ただ、暗がりの、このバーにいるものたちはそれらの一切を想起しない。感じない。思わない。
たとえばここに脆く儚い小さきものが迷い込み、恐怖の圧力に精神を圧壊させられたとしても、ああそうか、と思うだけだ。
勿論、リリィ・ザ・ストレンジャーがそういった迷い人を見かけたなら、そうなることを防ごうとはするのだろうけれど。
リリィの姿はバーの一角にあった。
カウンターの奥にいるマスターを目にして、言葉を交わして。
店に入ってきた三人とひとしきりやり取りをして。
そして──
「きみ、誰？」
少女は言葉を別の人物へと向ける。
奇妙なひとだった。
奇妙な姿をしていた。
全身を黒い紳士服（スーツ）で覆っていて、顔には仮面を付けている。黄金色の。両手もそうだった。機械なのか、そう装飾された手袋なのか、黄金色で覆っている。
一瞥した限りでは人間のように見えた。
けれど、頭と首が少し変だった。髪の毛がなくて、肌がなくて、爪もなくて。代わりに無数のうねうねとした管のようなもので出来ている。脈打つ管、幾つも。それらが合わさって、かろうじて人間のかたちを成して、紳士服と仮面と手袋を付けている。

『私は、世界だ』

「世界？」
その言葉には興味があったから。
彼の正面に座って、しげしげと見つめながら唇を開く──

† † †

「あたし、知ってるよ。
世界っていうのは、皆の数だけあるんだ」
『ふむ』
「紫色の果てへ旅をしたの。
そこであたしは、あたしだけの世界を見た」
『成る程』
黄金の仮面のひとがそっと頷く。
あたしは、つられて頷いて。

「だから、きみにはきみの世界があるんだよ」
『確かに』
「そういう意味じゃないの？」
『違うとも』
「じゃあ、きみの言っている世界って、何なの？」

あたしは尋ねてしまう。
不思議なひと。
黄金色のひと。
うねうねとした管、あたしやＡとは違う特徴があるけど、地下世界のひとたちの鉄（メタル）のようなもの？

『基底現実。厳然たる物理の法則によって支配された、そう、支配を約束された世界こそが私であり、私こそが支配者である』
「？」
『地球。それが私の世界であり、私だ』
「地球……」

言葉は知ってるよ。
地球。それは、星のこと。
雲の上を走り続ける一輛だけの地下鉄の上、夜の空に瞬く幾つものきらきらした輝き、雲や、空や、海や、ひとのいる街、そういうものがある“地上”のすべてを指す言葉。
地球。
ひとの生きる星。
命たちが輝く星。

「きみは地球なの？」
『然り。正しくは、地球を統べる支配者である』
「王さま？」
『王か』

黄金色の仮面が頷く。
あ、ようやくあたしは気付く。
仮面に刻まれた模様。これは、きっと薔薇の模様なんだ。

『かつて、太古。現代から振り返れば神代ともそれ以前とも捉えることのできる過去、人間たちが発生するよりも過去、地球にはイースの偉大なる種族が在った。かの時代、私はかの種族を統べる個体ではあったか』
「？？」
『然り。最も古き王にして、現代を統べる王でもある』
「そうなんだ」

王さま。
あたしは大きな顔をした彼のことを思い出す。
うん、今も、思い出せる。

「じゃあ、もしもあたしが地上に降りることがあったら、きみの国へ降りることになるのかな」
『然り』
「降りても、いい？」
『さて』
「だめなの？」
『……止めはしない。新しきものよ。我とは異なる黄金よ』

　赫い瞳があたしを見てる。
　黄金色の向こうから、薔薇の仮面の向こうから。

『雷電王を再起させた　　が深淵の酒場を訪れたと聞き、如何なる規模の現象数式体か確かめに来たが、なるほど。ささやかではあるが、確かに輝きであって、確かに黄金ではある』
「輝き？」
『お前のことだ。魔女にして　　よ』
「あたし、別に、きらきらしてないよ。今は魔女でもない」
『はは』

　赫い瞳が揺れてる。
　仮面が、少しだけ揺れてる？
　ああ、笑っているのかな、とあたしは思い至って。

「なぜ、きみは笑うの？」
『幼子を目にして微笑むことは、イースの者どもも、ひとも、さして変わらぬ。カダスで言えば《盟約》か。ただのひとの子であれば喰らうまでだが、お前は違う』
「あたしは人間……じゃないか、でも、人間もどきだよ」
『ふむ』
「あたしのこと、食べるの？」
『確かに、或いは、かの魔人ニコラ・テスラを震わせた輝きを捕食すれば、別なる黄金が得られるかとも僅かに考えたが』

　ん。それって。
　食べる、って言ってる！？

「た、食べるの？」
『否』
「食べないんだ」
『摂食したところで、得られるものでもあるまいさ』

　そう言うと。
　黄金の仮面は、少しだけ、眩しそうに目を細めて――

（つづく）



堺——

鼻の長い南蛮渡りの動物が闊歩していたのも遙か昔に感じられる。

海外貿易が始まると堺は京の入り口として世界各地の文化、物品、人種が入り乱れるほど繁栄したが、落ち着いた風情を良しとする流行により華やかさが薄れてしまった。さらに博多が商業拠点として重きをなす昨今、再び流行が派手な方へと移り変わってきていても衰えた活気は隠しようもない。

「落雁食べていいよ♪　代わりにボーロもらうね！」

來栖の返事を待たず、ボーロを鷲づかみして口に運ぶ平グモちゃん。來栖は微笑みながら平グモちゃんに頷くと落雁を手に取り、二つに割って口へ運ぶ。

「でもさー、このまんま船乗って帰っちゃった方がいいんじゃない？　京都なんか行っても死ぬだけなんだから」

天下を統一した豊臣秀吉は先日、とある事件を切っ掛けに有名無実であった伴天連追放令を推し進めた禁教令を発布すると、京に滞在している宣教師を捕縛したのである。來栖は直接、秀吉に談判へ赴こうというのだが平グモちゃんには無事に済むとは思えない。秀吉が素直に來栖の言葉に従うほど寛容であれば、そもそも宣教師を捕まえたりはしないのだ。來栖にも判っていた。しかし黙って見過ごすことは出来ない。

「これも神の与え賜うた試練です。私は京へ参ります。……貴女は松永様と共に信貴山城に籠城したではありませんか。命を捨てる覚悟で」

「あーアレかー……アレはねぇ……アレは命を捨てるとかじゃなくて……」

往年の信貴山城——

松永久秀は高笑いすると、自身の顔の傷を指先でなぞった。

「この傷がな、うずくのよ。織田の犬として果ててよいのか……となぁ」

「いいんだよ？　無理しなくても。むしろ今さらノブリンに逆らっても犬死にするだけだって」

おろおろと久秀にすがる平グモちゃん。頼ろうというのではなく、逆に久秀の心労に気づかなかった自分に動揺し、とりあえず久秀を労ろうとしたのだ。

信長配下の武将として本願寺攻めの陣中にあった久秀。総大将との折り合いが悪く手柄とは無縁の場所に配置されていた。平グモちゃんはこの冷遇が原因だとみていたのだ。

「犬の死とて、死に様さえ見せつければ人は憐れに思うもの。されど路傍で野垂れ死にした犬には誰も気を留めぬ。どちらを望むか、まあそういうことよ」

「んー……　犬だって長生きできるんなら長生きできる方選ぶんじゃないかなぁ。それに、ここでノブリンに謀反起こして死んだりしたら犬死にどころか犬未満死ににになっちゃうよ？　いいの？　犬未満だから……狼じゃないよね、狸とかになるのかな？」

「狸死にか。ふふん。野望潰えしときは化けて出るのも一興か」

「狸は生きてるときに人を化かすんだけど」

これは久秀も考えていなかった。確かに平グモちゃんの言う通りである。

「流石、儂が見初めた妻よなあ。反論出来ぬわ」

「よっし！　んじゃ狸死にする前にさっさと坊主の息の根止めに石山に戻って——」

「然れど此度は彼の時と同じなのよなぁ。平グモちゃんを初めて見た彼の時、と」

「はぁ？　何がぁ？　全然違くない？」

「彼の時は直感的に平グモちゃんに惹かれた。今振り返れど後悔はなし。其れどころか最善であったと言い切れるわい」

はっと顔を背ける平グモちゃん。顔は紅潮している。

「な、なに言ってんの……そんな……それに他の道も進んでみないと、わ、分かんなくない？」

「他の道？　其の様な物に費やす暇があるなら、十度でも百度でも平グモちゃんと共に生きたいものよ」

「ばっ……バカじゃないの！？　もしかして魔法少女のマネ！？　まど神様にでもなった気！？」

「はっはっは。平グモちゃんがそう言うのであれば儂は馬鹿なのだろうなあ。……馬鹿が決めた事と思って此度は諦めてはくれまいか」

堺——

（久ちゃんだけならどうにでも助けられると思ってやりたいようにやらしてあげたけど……あそこでちゃんと止めてれば……）

信貴山城での籠城の末、久秀が壮絶なる爆死を遂げてから20年余、今も平グモちゃんが拭い去れない後悔である。

（まさか久ちゃんに裏をかかれて、あたしだけ城から連れ出されるとはなぁ）

「結果として貴女は助かりましたが、それは貴女の望むことではなかったとなかったと理解しています。私も、大切な仲間を見捨て己だけ助かるつもりはありません」

後悔を背負って生きていく辛さは誰よりも理解している。「生きて後世に伝えることも大事な役目だよ」などと軽々しく口には出来ないし、無理をしてまでいうほど深い関係でもない。

「まぁ、いいけどさぁ、あたしが死ぬわけじゃないし。でも信仰ってのも大変だねー。あ、ボーロなくなっちゃった。……落雁食べていいよ？」

いいながら、來栖が膝に置いている巾着をじろじろと見る。

「金平糖はいかがですか？」

「いただきます！」

ぼりんぼりんと金平糖をかみ砕く平グモちゃん。

「サルには手紙送ったんだよね？　在京の宣教師助けてって」

サルとは天下人・豊臣秀吉である。

「はい。書状は送りましたが返書は賜れず。ですから直接会ってお頼み申し上げようと」

「それ絶対、サルと会う前に捕まって死ぬフラグだよ？」

「貴女も直訴なさりましたよね、秀吉様に」
「あー……そんなこともあったねぇ。あったけどさぁ……」

十余年前の大坂城――

主君・織田信長の仇討ちを果たした羽柴秀吉は実力で信長の後釜に座り、豊臣姓を名乗り始める。大坂城が出来たのはそんな時期であり、まだ東西に大きな敵対勢力を残していた。平グモちゃんの大坂城訪問は落成祝いなどではなかった。
「お久しゅう存じまつ」
数年ぶりの母子対面であった。
茄子たん。久秀と平グモちゃんの子で、信長の許へ人質として差し出されていた。
「キンカンが本能寺でノブリンもろとも茄子たんまで焼き殺したって聞いてたんだよ！　生きてたんならなんで連絡してくれなかったの！」
怒りと涙が混ざった叫びが響き渡る。
「親切な方に助けていただいて一緒に旅しておりまちた」
まだ幼い子供であった茄子たんも少女の風を帯びている。
「で、ちゃんと食べてる！？　サルに変なことされてない！？　三成とかにイヤミいわれてない！？　マスクド刑部に斬られてない！？　トラ加藤に退治されてない！？
福島正則に酒勝負挑まれてない！？」
わたわたと質問をぶつける平グモちゃんに対し、茄子たんは落ち着いて答えた。
「ご安心くだたい。太閤様は母上様との約束をお果たちなたれておりまつ」
「なっ！　なっ！　平グモ殿、儂の申した通りであろう！？」
慌てる秀吉を睨みつける平グモちゃん。
「茄子たん、サルにいわされてない！？
本当に大丈夫！？　何かあったら大坂城なんかブッ潰して連れて帰るよ！？」
「ご安心くだたい。私も母上様の子、何かあれば――」
茄子たんは首を傾け、秀吉に微笑む。
「如何様にでもいたしまつゆえ」
「それならいいんだけど」
平グモちゃんはやっと笑顔を見せた。
「明智討伐での恩は忘れておらぬからな。そうそう平グモ殿を裏切れるものか」
キンカンこと明智光秀は天下に手を掛けた織田信長を本能寺で斃すと、旧知の大名である細川藤孝と筒井順慶に味方するよう書状を送った。しかし両者共々、明智に荷担することはなかった。藤孝は千利休に止められたのだが、筒井順慶に意見したのは誰あろう平グモちゃんである。「大和をカラにしたらあたしがもらっちゃうから」といわれると、長年、久秀と戦っていた順慶だけに法螺話には聞こえない。援軍を得られなかった光秀は仇討ちの名の下に秀吉に討ち取られる。
（茄子たんの仇討ちのつもりでキンカン潰そうと思っただけなんだけど、サルが勘違いして恩に感じてるんならそれでいいか）
「あの時に交わした約束……茄子殿の骨が見つからなかったあの時、必ずや茄子殿を探し出し信長様に代わって儂が大事に保護するとの約束、十年や二十年で錆びるものではない」
平グモちゃんの思惑とは別に、秀吉としても信長の跡目争いに参加する資格を得られた恩がある。また、西に島津、東に北条が気勢を上げている。いま平グモちゃんに暴れられては戦乱の世に逆戻りしかねないという恐怖もあった。
「どーだかねー」
平グモちゃんは秀吉のいう約束を信じてはいなかったが、そのまま茄子たんを大坂城に預けた。秀吉に対して敵意はないと目に見える形で示したのだ。後年、平グモちゃんの正しさが証明されてしまう。秀吉は天下人となってから徐々に変わり続けている。
耶蘇教の禁教もその一つの現れであるが、世の中を最も驚かせたのが千利休の処分であった。利休は秀吉の片腕として豊臣政権を支えていた商人にして文化人であったが、秀吉を軽んじる行為が目に余るとして切腹させられたのである。そしてこの利休は平グモちゃんの妹・楽ちゃんの夫、つまり義弟であった。
豊臣政権に異を唱える相手であれば有能で信頼できる者であっても処刑する。
秀吉の明確な意思表明であり、不用意に動けば茄子たんの身も保障しないという平グモちゃんへの圧力でもあった。

堺――

（結局、サルは茄子たんを大事にしながら、あたしが世話になってる柳生には領地召し上げくらわすとかしてるし）
大和国柳生氏は松永家の家臣という過去を持つ土豪で、久秀の死後は平グモちゃんを保護していた。ところが秀吉の天下が安定すると、因縁をつけられ領地を召し上げられてしまったのだ。柳生には「脇が甘いからだよ」とうそぶく平グモちゃんであったが、内心では申し訳ない気持ちがうずまく。豊臣の天下を覆すのは伊達でも島津でも徳川でもなく、平グモちゃんに他ならないという秀吉の怯えが伝わったからだ。
（あの時に茄子たんを大坂城から連れ帰ってたら）
子供のいなかった秀吉は甥秀次を養子に迎えていたが、実子秀頼が生まれると秀次の素行を取り立てて処刑してしまう。天下の乱れを生みかねないというだけで処刑されていく昨今、判断を誤っていたら平グモちゃんも狙われていたかも知れない。
（もう茄子たんさえ無事なら、それだけでもう……）
茄子たんに何かがあれば平グモちゃんも行動を起こしたであろう。しかし間接的に攻めてこられてはそこまでの気力も湧かなかった。平グモちゃんとしても無用に戦乱へ逆戻りしたくはないのだ。
（サルも一介の武将から天下人に成長したってことかぁ）
感慨に浸る平グモちゃん。
金平糖を入れた瓶が空になったことに気づく來栖は足元に置いていた鞄を開ける。
「私も貴女のように、出来る事は全て行

います」
「や、あたしの場合はそんなんじゃなくて――」
来栖が小さな包みを笑顔で差し出す。
「よろしければ、どうぞ」
「ん？　くんかくんか……かすてーらな匂い！」
「はい。京で捕らえられている仲間への差し入れにと思っていましたが、これを渡す前に私が捕まってしまっては腐らせてしまうだけですので、喜んで食べて下さる貴女に差し上げます」
「ありがとう！　大事に食べるよ！　紙についたのも歯でシャー！シャー！って食べるからね！」
心底喜んでいる平グモちゃんを見て来栖も嬉しくなる。
「カステラも嬉しいでしょうね、おいしく食べてもらえる方の手に渡って」
来栖は自身の心情をカステラに重ねて語ったが、平グモちゃんは気づく気配すら見せてくれない。
「このカステラはお礼です。決意を聞いていただけたお陰で、充実した気持ちで京へ向かえます」
いま伝えておかなければ次の機会はないと判っているだけに、来栖はどうしても謝意を伝えておきたかった。
「んー……んーー……」
平グモちゃんが来栖と会うのは今回で十数度目だが、じっくりと話したのは初めてである。耶蘇教信者でもない平グモちゃんからすれば、よくいる宣教師の一人でしかなかった。ただ、カステラまで貰ってしまっては黙って見過ごせなくなってしまう。
「やっぱさぁ、京に行かない方がいいんじゃない？　誰かが生き残って後世に事実を伝えるとかしなくていいの？」
「行く川の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず……と申します」
「カモちゃん！？　なんで『方丈記 by鴨長明』とか知ってんの！？」
「その国の言葉と文化を知らなければ、布教もままなりませんから」
「あー、まぁそうかぁ。そうだよねぇ。でもさ、最初に会ったときはもっとインチキくさくなかった？　……よく覚えてないけど」
「私は覚えております。お菓子を食べていたのに急に走って出て行きましたよね」
「なにその記憶。なんかあたし、子供みたいじゃん。誰かと間違ってない？」
「天真爛漫ですよね」
「おー！　それ！　天真爛漫！　あたし、チョー天真爛漫！！　あー、そっか。ちょっと思い出してきた。つわりだったんだよ、あの時」
「茄子さんの時ですよね」
「うん♪　そう考えるとずいぶん経ってるんだなぁ」
「……それと同じだと考えております」
「それ？　それってどれ」
「この世はいつの時代も人によって営まれていますけど、それは次の世代、また次の世代へと手渡され続いております。信仰も同様に、私が殉教したとしても次の世代の者が耶蘇教を伝え、広めてくれるものと信じるばかり。いつの日か禁教の解かれる時まで……」
「次の世代が誇りに思える死に方をしたいんだね」
来栖は答えず、微笑むばかり。
平グモちゃんは顔をしかめ、傍らに置いていた風呂敷包みに手を差しのべては引き戻しを繰り返す。
「ま、いっか！」
包みを解いて小箱を取り出した。
「これヨッチャンの仏壇にお供えしようと思って買ってきたんだけどあげる♪」
ヨッチャンとは田中与四郎のことで千利休の別名である。
「落雁！　しかも超おいしい落雁なんだから！　いうなれば落雁を超えた落雁！　もうね、さっきあげた落雁がファミコンなら、これはスーパーファミコン……いや、XboxOneくらい凄いんだって！」
「そ、そうですか」
平グモちゃんの言葉に動揺を隠せない来栖であったが、すぐに笑顔を取り戻す。
「でも、よろしいんですか？　大事なお供え物をいただいても」
「いいって、いいって♪　どうせヨッチャンは食べられないんだし☆　おいしい物を食べられるのは元気に生きてる人の特権！　ちゃんと京都に着く前に食べるようにに！！」
「……はい。ありがたくいただきます」
「ちゃんと食べないと、秀吉に殺される前に落雁の精に取り殺されるんだから！」
「ふふふ……」
つい声を出して笑ってしまう来栖。在京の宣教師が捕らえられたと聞いた時、殉難者となる決意は出来ていた。博多から堺への道中では、死に向かう自分に酔うところもあった。ところが堺について平グモちゃんを見かけ、声を掛け、話をすると、前のめりになっていた心がいつの間にか解されてた。
「松永様が貴女を選んだ理由が判りました」
「んぁ？　なになに教えて！！」
「いえ、こちらの話です。お気になさらず」
「そんなこといわれて気にしないわけないよね？　……ホントは判ったふりしてるだけなんじゃない？」
「さて、どうでしょうか」
はぐらかす余裕も生まれている。ところが来栖、何を思ったか途端に顔が険しくなる。
「平グモ様、また松永様と会いたくはありませんか？」
「会いたいに決まってんじゃん」
即答であった。
「ならばこれを――」
来栖はミミズが暴れたような物が書かれた羊皮紙を取り出した。
「邪悪な異教徒ですら禁呪とする死者復活の法です。これを読み解き、秘術を行えば松永様も甦ります」
「久ちゃんが生き返る……」
「はい。強い念さえあれば必ずや」
「そっか……」
平グモちゃんは羊皮紙をぐしゃぐしゃに丸めて後ろに放り投げる。



「ありがと♪　でもさ、あたしが好きな久ちゃんは普通の久ちゃん。ゾンビの久ちゃんじゃないんだよね☆」

「そうですか」

來栖に笑顔が戻る。長年に渡り隠してきた秘中の秘を軽々しく扱われた不愉快さも湧いたが、信仰者としてあるべき道に留めてくれた平グモちゃんへ感謝の念が遙かに上回っている。

「平グモ様、まだ時間はおありですか？」

「用事によるかなぁ。……おいしい物を食べに行くってのなら……あるよ。作るよ」

「ヨッチャン殿のご供養はよろしいのですか？」

「大丈夫！　命日はズレても仏壇は逃げない！　ヨッチャンだって判ってくれる！」

「それは……本当に大丈夫なのですか？」

誘ったのは來栖だが、ここまで断言されると逆に不安になってくる。

「楽ちゃんには怒られるかも知れないけどね！　……最近、なんかさぁ、『お姉ちゃん、昔はもっとしっかりしてたよね』って叱られるんだよねぇ」

「駄目なのでは……」

慈愛に溢れた來栖ですら弁護の言葉が見当たらない。

「一期一会っていうじゃん！　今を大事に！」

「そこまでいうのでしたら」

「よーし、そうと決まれば最後の晩餐だー！　あたしユダねー！」

「流石にユダはちょっと……」

「UD！　UD！　南斗紅鶴拳！！　行け、コマク！！」

気付いた時には立場が逆転、顔をしかめた來栖が平グモちゃんに手を引かれて堺の雑踏へと消えていった。

羊皮紙は風に吹かれて転がっていく。それは自身の意志とは無関係に世に流されて生きる戦国武将のようでもあり、來栖の未来を暗示しているようでもあった。

後日、京で捕らえられた來栖はすでに捕縛されていた25人の宣教師と共に長崎へ送られる。磔になった來栖が槍で両脇を刺される刹那、一言もらしたという。

ハレルヤ、と——

（完）

來栖が長崎へ向かっているのと同じ頃。

打ち棄てられた信貴山城跡に女の影が一つ。

「エロイムエッサイムエロイムエッサイム、我は求め訴えたり」



誰も得をしない近況マンガ
鳥さんといっしょ12
祝!
先日、10月1日にエンバレ発売9周年をむかえました!
いやぁ。いつの間にやらずいぶん時間がたったものですねェ
オオ、珍しく近況っぽいな
!!
前回は鳥さんと一緒ですらなかったし
当時はまだ若かった皆も、もういい歳こいたおっさんやおばS… 痛いです
ぐぐぐ…
それ以上はいけない!
フゥ
思い起こせば本当に色々ありましたね
たくさんの困難をのりこえ
もやぁ…
経験を積み、人としても成長を—
※何も浮かんでこない具体例
ハッ
成ちょ…う…を…?
あれ?もしかして何も成長してなくね?
サー
—と、気付けた事こそ、成長の証なのですねッ
キリッ
ナルホドナー
辛い現実から目を背ける事に関しては成長できたんじゃないかな?と、彼らは後に、少し照れくさそうに語ったという——。


New!
企画進行中
ご当地ヒーロー
企画・シナリオ　天野祐一
原画　みゅらっち
vs ゆるキャラ
されない
タイトル未定/2014年予定
注：画像は企画中につきまるで当てにならないことが多々あります

LETTER AND POINTS
おたよりコーナー

○特集コーナー「学校」

『学校といえばシャルノスのメアリも学生でしたね。教授がいたりハインツ先輩がいたり、なかなかスペックの高い学校…。メアリがデートに誘われて、そうとわからずにバッサリ断ってしまうような話が見てみたいですね。シャーリィの根回しもありそう…。シャルノス前はみんな普通の生活してて、それが壊れるのってシャーリィも怖かったんでしょうね』1+3p(3229・雪あとむ)
碩学院は英国有数のエリート養成施設です。メアリは、本人が気付かないだけで男子学生たちからアプローチされることもあるはずですが…気付かないということは、恐ろしいことですね…。【桜井】

『メアリ達が通う碩学院の一日のスケジュールが知りたいです』
1+3p(2995・あかべこ)
カリキュラムの半分ないし三分の一ほどは学生自身が考えて組む必要があるため、そのあたりで個人差が出てきます。メアリの場合は、基本的に朝から午後3時くらいまでは授業を受けています。ただ、午前中がぽっかり空いている日や、お昼で授業が終わる日もあったり。【桜井】

『レイディ・エイダ&キザイア先生の大人な授業』1+3p(3680・竜宮)
わたしも見たいです。まず、健康な男子学生をひとり用意します、そして…。【桜井】



★イラスト投稿 1+5+5p(3580・ささめけ)
セーラー服キーアかわいい！
学園ものインガノック、面白そうですね…ギー、モテてる！【桜井】

『学校ということで、部活動…お笑い研究部には、伝統的極東文化「落語」を好むベルタ部長(ガクトゥーン)とお笑いに命をかける朝比奈副部長(メガラフター)の2人を中心に日々笑いを探求中。不定期にメガラフターを使ってお笑いライブを開催しているが、下品なネタで笑いをとろうとする輩には、部長のテュポーンによる鉄拳制裁が待っており、ラストはそれを止めるため他の部員があの手この手で部長をなだめる、といった流れが定番になってきている。なお、シリアスな世界観のキャラクター達にもお笑いは受け入れられているようだ』
1+3p(4406・カラカラ)
ライアー学園ですね…！　正統な落語がわかるベルタさんのことを、朝比奈真一くんは尊敬していると思います。そして鉄拳制裁は止めようとする…。【桜井】

『学校といえば学園スチパン！　蒼組の名物カップル・コニー&カルヴェルティ、保健室のギー先生と保健委員キーア、学級委員メアリと引きこもり問題児M、何故かいつも女の人を連れて授業をするレオ先生、何故かいつも特定の下級生の教室を廊下からじっと眺めている男子生徒A、そしてやってくる72歳の転校生……などと妄想が止まりません！
いつかそんなクロスオーバー世界を見てみたいです』1+3p(2980・ゆず茶)
学園スチパンでクロスオーバー、面白いですね。楽しそう！　そして変わらないマスター…バラエティファンディスク、なるほど…(新宿のほうを見る)。【桜井】

○漆黒のシャルノス

『初スチパン、シャルノスFVRクリアしました！　キャラクターがみな魅力的で、世界観にも引き込まれました。何よりたったひとりを選んだシャーリィの想いが切なかった…シャーリィ

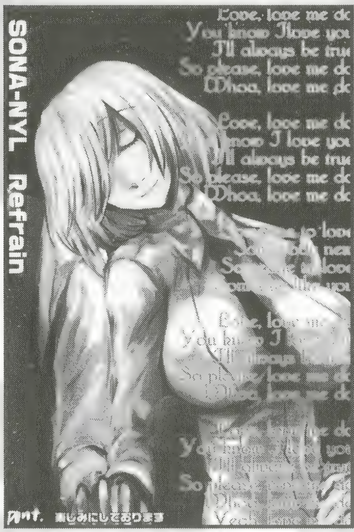
には今日に閉じこもることなく明日にメアリと結ばれてほしい、いち百合オタとしてはそう願って止みません。そしてやっぱりフルボイスはいいですね、バロンの口上、最高でした。すばらしい物語をありがとうございました！』1+3p(4019・もっち)

クリアありがとうございます。お楽しみいただけたなら、何よりの幸いです。フルボイス、いいですよね！【桜井】

○紫影のソナーニル

★イラスト投稿

『電気外祭りのポスターを見て知らず涙が零れておりました。本当に本当に本当に PSP 版も楽しみにしております。早くリリィさんやエリシアさんにまた会いたいです』



1+5p(3580・ささめけ)

美しいイラストをありがとうございます。瞼を閉じたエリシアさん、美しい…。【桜井】

『44 号に掲載されていたイラストを早くカラーで見たい！　PSP 版楽しみにしてます！』1+3p(4103・リーカ)

『ＰＳＰ版の情報がおあずけ状態でどうなったのか凄く気になります。次号では何か発表があるでしょうか？』1+3p(3640・悠季)

わたしも、早くお届けしたいです。情報の詳細公開まだかな～。【桜井】

○黄雷のガクトゥーン

★イラスト投稿

『シャイニングナイト楽しませて頂いております。ガクトゥーンの頃からずっと気になっていたヴァルターとベルタ。ふたりのエピソードが素敵でドキドキしながら読んでいました。ベルタのドレス姿、本当に可愛いです・・・！』



1+5p(4299・清水千冬)

背中あわせのふたり、舞い散る欅の葉。美しい…【桜井】

○絶対地球防衛機 メガラフター

★浮世絵投稿

『発想が出続ける限り、浮世絵ブームを続けますｗ 後はライアーはスチームパンクだけではない事を主張し続けるべく頑張りたいと思いますｗ』



1+5p（1513・素浪人）

こ、これは揺光星人さんの――あっ、博士、博士－！！【桜井】

○平グモちゃん

『遅くなりましたが、平グモちゃん１周年おめでとうございます。先日「prosit！」も購入し聴かせていただいたのですが、改めて、OP・ED 共に元気の出る良い曲だなぁと思いました。Lem さんのイラストも２枚とも素敵で、もっと大きいサイズで見たいと思いました。会報の外伝小説も毎回楽しませていただいております。前回は特に楽ちゃんに震えました。楽ちゃんは本当に可愛いですね。まだまだ平グモちゃんのお話を読みたいので、これからも続けていただきたいです。

それから、今さらかもしれませんが、平グモちゃんは攻略が難しかったので、攻略本のようなものがあると嬉しいなぁと思います（会報の小説も一緒にまとめていただけたら尚嬉しいです　笑)』1+3p(4231・理)

わぁいたくさんありがとうございま

す！prosit！最高ですね！！
私も平グモちゃんやライアーさんの作品全部の攻略本欲しいですです！【Ｌｅｍ】

○屋上の百合霊さん

★切り絵投稿

『屋上の百合霊さんなどの切り絵をまとめた本を作らせて頂きましたので、その中からサフィズムのニキと百合霊さんの陽香の切り絵を投稿しました。イベントでは阿野藤、結奈×比奈などの切り絵（実物）を展示＆頒布しております』



1+5p(3636・緒方ゆう)

※編注 本当は真正面からスキャンしたかったのですが、とても繊細な作品なので額から取り出せませんでした。伝わりきらないのが残念ですが、隅々まで丁寧に細工された力作です！

次は全キャラですね！【とい天津】
ギターのネック部分まで細かくてビックリしました。すごい！【Ｐｅｇ】

○星継駅蒐集箱

『「沙流江大冒険・濘々の氷」まさかのスペオペ編！……沙流江は本当に寺沢武一服が似合うなぁ（笑）』 1+3p(1834・Johnny-T)
好きが高じてまたまたやってしまいましたスペオペオマージュ。寺沢武一描くところのスペースビキニの美女たちは、永遠の憧れのセックスシンボルで、いつかは自作のヒロインに着てもらいたいと願っていました。実際は霞外籠の外伝でもお手伝いさんが来ているのですが、その時はイラスト化の都合がつかなくて。こういう彼女を脇に置いてパイロットしているはイイ趣味してるよなあ。【希】

○巻末４コマ

『鯉のぼり四コマ……なんてアットホームな統治会！皆さまかわいすぎです！　そして疾走するヴァルターさんの鯉のぼりを見たイズミが更なる腹ペコ的勘違いをするところまで妄想しました』 1+3p(2980・ゆず茶)
『４コマはなかよしな統治会が微笑ましくて大好きです。こいのぼり泳がせてあげるヴァルターさんもいいけど、作ってあげるライヒさんも意外で素敵です。ほのぼの温かい気持ちになりました』 1+3p(2635・ナカ)
『４コマ、わざわざ鯉のぼりを作ってあげるライヒさんが優しいなぁと思いました』 1+3p(3680・竜宮)
ありがとうございます！ベルタさんの言う鯉のぼりとは何なのかミニサイズで作ってみたライヒさんのようです。きっと最初は よくわからなくて本物の魚で作ったのではと……
あっこっちのほうが面白かった！【Ｌｅｍ】

○灰燼のカルシェール

『本当に終わってしまった世界でした。大機関時計落ちた結果、終焉を迎えたのかと思ったらそれ以外にも何か凄いことに。ジュネさん可愛いですね、ナイスバディ。キリエさんは朴訥というか本当にいい子ですね。チクタクマンはこの世界に飽きて違う世界にでも行ったと思ったらチラ見しってていやらしいですね！』 1+3p(3680・竜宮)
ジュネとキリエに何かを感じていただけたら嬉しいです。チクタクマンは、そうですね、とてもいやらしいマンです。いやらしい！【桜井】

○希文堂掌編集

『持ち運べる形で今までの文をまとめていただけて非常に助かりました。まとまった形で外でものんびりと読めるので、どこでも希さんの文を読めるのが嬉しいです』 1+3p(3640・悠季)
現在収録できる限りのレイルソフト各作の短編を、読みやすく再編集、再校正してユーザー様の御手許に、という企図のもと制作された希文堂掌編集、お楽しみいただけて何よりです。次にこういった形で短編集が出るのはどれくらい先になるのか判りませんが、その際も是非お引き立ていただければ幸いです。【希】

『届いてから少しずつ読み進めました。一気に読み終わるのもったいないので一篇ずつ。描き下ろし以外は読んだことはあるんですけど書式統一されて白地に黒で読みやすくてとても嬉しいです。文章に酔うって感じでとても良いです。お酒片手に読むのもいいかもしれません。めくるめく淫靡な世界に浸りたい時に最適ですね』 1+3p(2637・ナカ)
読み易い、とのご評価は非常に有難

く思います。書式統一と段組みにあたっては、頁数制限と読み易さの折り合いをつける為、編集担当の者とかなり細かく調整を繰り返しました。それでもまだ改善の余地はあるかもしれませんが。…というか、会誌掲載時にはどんだけ無理矢理テキスト詰め込んでいたんだ、って事なのですが。【希】

○その他

『電気街祭りお疲れさまでした！ 参戦できなかった自分に、ガチャガチャでの当たりが何だったのか教えて下さい～』 1+3p(2995・あかべこ)

9／6のスタッフブログでちらりと公開したのですが、ゼリービーンズとこけしの手作りカンバッジでした。あくまでも「当たり」ではなく「おまけ」なので勘弁してくだせえ……！【グランテール井上】

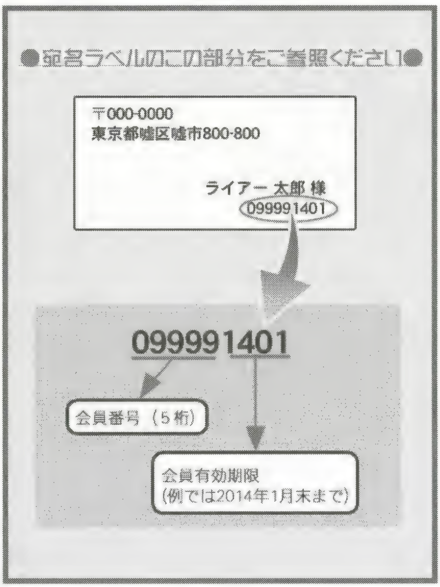
★「月刊うそ。」45号、学校特集はいかがでしたでしょうか。テーマ制に移って初めての号ですが、楽しんでいただけたら幸いです。
★今回のように、テーマにあわせてコーナーが復活することもありますので、新旧問わずお目当ての作品への投稿をどしどしお寄せ下さいね！
★それにしても今号はイラストを沢山いただきました。愛情の伝わる綺麗なイラストばかりで、とても見ごたえのある紙面になりました。浮世絵、切り絵とジャンルも様々で面白いですね。ありがとうございます！
★次回テーマは**「英雄」**です。
皆様の心に生きているライアーソフト・レイルソフト作品の「ヒーロー」について送ってください！
（会報テーマも募集しております。採用者にはポイントプレゼント！　広いテーマの方が採用されやすいかも？
★それでは、お読みいただきましてありがとうございました！




▲本誌でも漫画を好評連載中の中村先生が、趣味のサイクリングに合わせまして「腐り姫」の主役、蔵女の可憐なサイクルジャージを作られました。フルカラーの綺麗なプリントはモノクロでご紹介なのが残念な出来映えです。
すでに頒布は終了しておりますが、ひょっとしたら町やサイクルイベントなどで見かけることがあるかもしれませんね。

＜お知らせ＞

新方式の宛名ラベルは「会員番号」「会員有効期限」をご確認いただけます。お名前の下にある9桁の数字のうち、初めの5桁が「会員番号」、その後は期限の有効期限（年・月）となります。
（例：会員番号9999　会費有効期限2014年12月　→　099991412）



Q 会員番号が5ケタで書いてありますが、投稿する時も5ケタで書いた方がいいんでしょうか？
A「いずれ会員ナンバーが5ケタに達したら嬉しいな」という見果てぬ夢による5ケタ表記なので、現時点では4ケタ表記で大丈夫です。

●新作ＰＣゲーム●



『黄雷のガクトゥーン』の後日談にあたる物語がＰＣゲームにて登場！

黄雷のガクトゥーン・シャイニングナイト

-N'gha-Kthun:Shining Night-

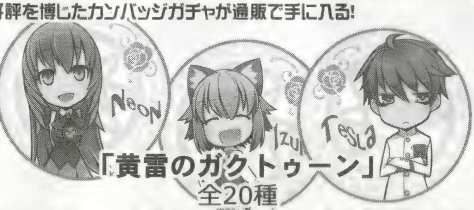
――学園都市最初の転校生、ニコラ・テスラが訪れてから
実に１年が過ぎていた。

ＦＣ通販価格：4,600円(税込)
予約特典ドラマＣＤ「黄雷のガクトゥーン：シャイニングリーグ」
ＦＣ購入特典：アペンドシナリオＣＤ「乙女の戦装束」

●新作グッズ●

ライアーソフト・カンバッジシリーズ
1個200円

電気外祭2013 in summer、ドリームパーティ東京2013秋で好評を博したカンバッジガチャが通販で手に入る！



「黄雷のガクトゥーン」
全20種
＋シークレット１種（ドリームパーティ東京2013秋と共通）



「屋上の百合霊さん」
全16種

原寸大（38mm）→

※不透明な袋に個包装し、
柄がわからない状態でお届けします。
※合計15個まではメール便発送可能です。

新作 ゲーム & グッズ

●新作ボーカルＣＤ●



「Prosit!」 ¥3,000

**前作「salute！」から早５年…
ライアーソフト×レイルソフト×Ｒｉｔａの
ボーカルコレクションCD第２弾！**

・旅立ちの夜明け（水スペ川野口ノブ探検隊OP）
・treasure explorers（水スペ川野口ノブ探検隊ED）
・apoptosis（紅殻町博物誌OP）
・refrain（紅殻町博物誌ED）
・濛々たる黒煙は咲き（信天翁航海録OP）
・CORAZON（信天翁航海録ED）
・Melanchoria（花散峪山人考OP）
・damn（花散峪山人考ED）
・Girl's spirit-オトメノキモチ-（屋上の百合霊さんOP）
・a new day.（屋上の百合霊さんED）
・でとねいたー！（平グモちゃんOP）
・疾風の行方（平グモちゃんED）
・Tonitrus（黄雷のガクトゥーンOP）
・quaerere（黄雷のガクトゥーンED）
＋ＢＧＭアレンジ１（黄雷のガクトゥーンＢＧＭアレンジ予定）
＋ＢＧＭアレンジ２（屋上の百合霊さんＢＧＭアレンジ予定）
＋＋予約特典マキシ「真白慕情」（どすこい！女雪相撲挿入歌）

●新作レイル文庫●

星継駅シリーズの３作目が登場！

星継駅疾走軌
-アステライトしっそうき-

著作・希／挿画・浦辺克斗
価格 ￥７００

――これは『駅』の遥かな物語。
――遠い未来、宇宙のかなたより帰還せし、伝説の女航宙士、
ゴドー・トルクエタム、その若き魂の彷徨の、物語。



－ライアーソフト・レイルソフトＦＣ販売物一覧－

※価格は全て税込です。※同送の「通販要綱」を参考にお申し込みください。

＜ゲーム＞

●スチームパンクシリーズ

(※1)黄雷のガクトゥーンShining night	￥4,600
(※2)黄雷のガクトゥーン[通常版]	￥5,400
初回特典冊子付	￥5,900
(※3)紫影のソナーニル	￥7,040
(※4)白光のヴァルーシア	￥7,040
(※5)漆黒のシャルノスFullvoiceReBORN	￥3,000
(※5)赫炎のインガノックFullvoiceReBORN	￥3,000
(※5)蒼天のセレナリアFullvoiceReBORN	￥3,000

●レイルソフト

(※6)星継駅蒐集箱	￥3,840
(※7)花散峪山人考	￥7,040
(※8)信天号航海録	￥7,040

●ファンディスク

(※9)ハチポチ	￥7,040
(※10)Steampunk Full-voice Fandisk	￥3,000
Round a Go! Go!	￥5,400
ＦＤ3読参子育成企画(FC専売)	￥2,000

●その他

(※11)平グモちゃん-戦国下剋上絵巻- [豪華限定版]¥7,840[通常版]¥6,240	
(※12)屋上の百合霊さん	￥7,040
(※13)オイランルージュ	￥7,040
(※14)どすこい！女雪相撲	￥7,040
(※15)妖刀事件	¥6,800/特典有¥7,400

(※1)予約特典ドラマＣＤ「黄雷のガクトゥーン：シャイニングリーグ」
ＦＣ購入特典：アペンドシナリオＣＤ「乙女の戦装束」
(※2)ＦＣ購入特典：アペンドシナリオＣＤ「マスターの１日」
(※3)ＦＣ購入特典：アペンドシナリオＣＤ「幾つかの、冴えたやり方」
(※4)ＦＣ購入特典：アペンドシナリオＣＤ「それは、彼女達の幕間」
(※5)ＦＣ購入特典：スタッフ同人誌「スチパントリビュート」
FullvioceReBORNシリーズ3作、同一の特典ですので、2本以上お買い上げの場合も1回のご購入につき1冊付属とさせていただきます。
(※6)ＦＣ購入特典：冊子「星継駅蒐集箱・追補編」
(※7)購入特典：「花散峪山人考」サウンドトラック（なくなり次第終了）
ＦＣ購入特典：「レイルサウンド・ザ・ベスト」(「霞外籠逗留記」「紅殻町博物誌」「信天翁航海録」のベストサウンドトラック)
(※8)ＦＣ購入特典：冊子「信天翁航海録削除部分流出版」
(※9)ＦＣ購入特典：冊子「月刊うそ。特別号」
(※10)ＦＣ購入特典：書き下ろしノベルペーパー『西インド会社定期報告書二〇〇三五九号』＋ＦＣ会員は限定ページから会員専用シナリオをダウンードできます！
(※11) 豪華限定版特典（ソフトに同梱）：フルカラー設定資料集、「平グモちゃん」サウンドトラック
ＦＣ購入特典：平グモちゃんペーパークラフトＣＤ
(※12)購入特典：挿入歌マキシＣＤ「ＡＡ愛！」
ＦＣ購入特典：アペンドシナリオＣＤ「新しくこの学園に来たあなた達に」
(※13)予約特典：「オイランルージュ福読本」（なくなり次第終了）
ＦＣ購入特典：アペンドシナリオＣＤ「ある大紋日の高瀬屋」
(※14)ＦＣ購入特典：アペンドシナリオＣＤ「どすこい！女雪相撲～胸がドキドキ宇宙場所体験～」
(※15)特典：書き下ろしNETRIDEカード（ＤＬ販売用金券）

＜グッズ＞

●音楽ＣＤ

(メ)ボーカルＣＤ「Ｐｒｏｓｉｔ！」	￥3,000
(メ)ボーカルＣＤ「Ｓａｌｕｔｅ！」	￥3,000
(メ)スチームパンク5周年記念ＣＤ「ricordo」	￥2,500
(メ)サフィズムの舷窓アレンジＣＤ「AIGRETTE」	￥2,000
(メ)Liar-softサウンドトラック「ぶるま」	￥2,500
(メ)Liar-softサウンドトラック「わらび」	￥2,500
(メ)Liar-softサウンドトラック「しっぽ」	￥2,500
・Liar-softサントラ3セット（ケース付）	￥6,000

●スチームパンクシリーズグッズ

(メ)黄雷のガクトゥーン　ノベルアンソロジー	￥1,500
(メ)黄雷のガクトゥーン　ドラマＣＤ「間違いの悲劇」	￥2,000
(メ)黄雷のガクトゥーン　クリアファイル	￥500
・黄雷のガクトゥーン　ひざ掛け	￥3,000
(別)黄雷のガクトゥーン　タペストリー	￥3,500
(メ)スチームパンク５周年記念冊子	￥1,000
(メ)英訳書籍「スチームパンクラフガイド」	￥1,000
(メ)ドラマＣＤ「スチームパンククインテット」	￥2,000
(メ)スチームパンク・フルボイスファンディスク	￥3,000
・蒼天のセレナリアファンブック	￥1,800

●レイル文庫

(メ)星継駅疾走軌外伝	￥700
(メ)星継駅年代史外伝	￥500
(メ)星継駅擾乱譚外伝	￥500

●その他グッズ

(※)カンバッジ「黄雷のガクトゥーン」全21種	1個￥200
(※)カンバッジ「屋上の百合霊さん」全16種	1個￥200
・灰燼のカルシェール	￥2,500
(メ)ＩＣカードステッカー	￥1,000
(メ)ライブ記念マイクロファイバータオル	￥500
(メ)屋上の百合霊さんグッズセットＡ（クリアファイル・名簿・開運百合開きシール）	￥1,000
(メ)屋上の百合霊さんグッズセットＢ（クリアファイル・名簿）	￥500
(メ)Liar&raiL　PosterArtCollection	￥1,500
・ＢＧＭフェスタＴシャツ　Ｌサイズ	￥2,000
(メ)ＢＧＭフェスタ冊子「隻眼のリタツキン」	￥1,000
・ＢＧＭフェスタＣＤ「隻眼のティンダロス」	￥2,000
(メ)『月刊うそ。』バックナンバー（11～13,16～28,30,31,33～35,37～43号）	各￥400

(メ)単品注文の場合、メール便(￥300)での発送が可能な商品です。
(別)他のグッズとは別送になり、別途送料がかかります。
(※)カンバッジは不透明な袋に個包装し、柄がわからない状態でお届けします。15個まではメール便発送可能です。

※ライアーソフト第25弾『水スペ川野口ノブ探検隊』までの作品（『妖刀事件』を除く）、及びレイルソフト第２弾『紅殻町博物誌』までの作品はロットアップしました。現在、追加生産・販売は行っておりません。一部タイトルは弊社ＨＰよりＤＬ販売しております。

ここだけの話「どうしてもこのソフトが欲しい！」場合は、一応お問い合わせください（駄目元で）。ＦＣ会員様にだけひっそりと利く融通が、あったりなかったり……。



投稿者名／あかべこさんのトピックスネタ《特集、嘘つきオールスター感謝祭》採用させていただきました！

ライアースタッフQ&A

第7回「桜井光」シナリオライター

『リラックス出来る音楽を教えてください』（棘姫様）
最近はデイヴィッド・ギャレットやピアソラがお気に入りです。素敵な旋律で、聞き惚れます…。

『ライアーソフトでライターを始められた経緯が知りたいです』（かつきえびね様）
ライアーソフト設立当初のスタッフたちとは元々知己だったんです。わたしは一番下の後輩でした。ある時、人手が足りないからとお呼ばれしたのがライター参加のきっかけですね。正確には『行殺新選組』の時にもお手伝いしたんですけども、あんまり今に繋がる何かではないです！

『お話を考えてからキャラクターを考えるのでしょうか？それとも逆ですか？』（リーカ様）
ほぼ同じタイミングだと思います。キャラクターを考えつつ、お話を考えつつ。

『スチームパンクシリーズの中で特に思い出深い作品はありますか？』（悠季様）
『自分の作品でお気に入りキャラクターは誰ですか？』（K・M様）
どの作品も、どの子たちも大好きです。なので、なかなか絞れません～。

『1日辺りどれくらいの分量執筆されてるのでしょうか？』（あかべこ様）
何もしない時はゼロで、頑張ってる時は1日に100kbとか190kbとか書きます。

『製作中にキツイ出来事はありましたか？　1番キツかったのはなんでしたか？』（如月様）
つらいことは忘れちゃいます。楽しいことを覚えてるようにしたいですね。あ、でも、たまにフッと思い出しますねつらかったこと…。

今回も入りきりませんでした！続きはwebで！
※次回は通販・事務・雑用担当のジムニーさんです！

<編集後記>多忙な編集長に代わりましてご挨拶を。とはいっても何を書いたものか……。編集後記のスペースが小さくてむしろありがたいです。PNも長くて良かった！（グランテール井上）

《会員専用ホームページ》

http://www.liar.co.jp/cgi-bin/gate/gate.cgi
※在庫切れ会報のバックナンバーPDF、会報宛て投稿フォーム、壁紙やコミック等FC限定のコンテンツ多数！
※以下のIDとパスワードでお入りください。
ID:member　Pass:uso800

《お便りの宛先》

〒160-0022　東京都新宿区新宿 1-25-3
エクセルコート新宿 301
FAX.03-3355-6736　e-mail fc@liar.co.jp
※会員ページの投稿フォームもご利用ください

ライアーソフトファンクラブ会報
『月刊うそ。』第45号
年4回季刊発行　2013年11月1日発行
発行：(株)ビジネスパートナー　ライアーソフト
編集：『月刊うそ。』編集チーム
表紙レイアウト：しまさらゆめき
表紙・巻末漫画：Lem
発行：あかつき印刷

twitter アカウント /@liar_railsoft
スタッフブログ /http://blog.livedoor.jp/liar__rail/

ライアーソフトファンクラブ会報
『月刊うそ。』
二〇一三年一一月一日発行　年四回季刊発行
（株）ビジネスパートナー　ライアーソフト

屋上の百合霊さん
YURI DRAMA CD

ゲーム発売より1年と5ヶ月以上……

新作ドラマCD制作決定！

●登場キャラクター　阿野、結奈、比奈、音七（今回の主人公は阿野ちゃんです！）
●発売時期　2013年末予定

